



創立100周年記念式典

特集：創立100周年記念事業

目次

大阪薬科大学報創刊50号記念号発行にあたって	……広報委員会委員長	玄 番 宗 一	…1
創立百周年記念式典を終えて	……理事長	川 島 康 生	…2
大阪薬科大学創立百周年記念式典式辞	……理事長	川 島 康 生	…3
大阪薬科大学創立百周年記念式典ご挨拶	……学長	矢内原 千鶴子	…4
大阪薬科大学創立百周年記念市民講座を終えて	……創立百周年記念市民講座委員会委員長	馬 場 きみ江	…5
資料展示室の整備について	……資料室整備委員会委員長	坂 田 勝 治	…6
クイーンズランド大学との学術交流協定締結	……学長	矢内原 千鶴子	…7
大阪薬科大学シンボルマークおよびロゴタイプ使用規程の制定について	……広報委員会委員長	玄 番 宗 一	…8
創立百周年記念募金事業にお力添えを	……創立百周年記念事業募金委員会		…9
薬学新教育制度施行に向けて	……学長	矢内原 千鶴子	…10
久保田晴寿元学長追悼の辞	……学長	矢内原 千鶴子	…11
功労者石黒武雄氏追悼の辞	……大阪薬科大学同窓会副会長	堀 口 充	…12
平成16年度公開教育講座	……公開教育講座委員会委員長	松 村 瑛 子	…13
平成15年度学校法人決算	……事務局長	肥 塚 敏 彰	…14
ホームページを大幅に改善します	……広報委員会委員長	玄 番 宗 一	…16
平成16年度前期授業・実習評価アンケートについて	……教務部長	千 熊 正 彦	…17
「大薬祭」を楽しむ	……学生部長	加 藤 義 春	…20
学生相談室からのメッセージ	……学生相談室相談員	児 玉 陽 子	…21
平成16年度進路・就職状況（中間報告）	……就職部		…22
教務課だより			…24
図書課だより			…26
経理課だより			…26
学生課だより			…26
就職課だより			…29
入試・広報課だより			…30
総務課だより			…32
薬用植物の紹介	……薬用植物園長	馬 場 きみ江	…34

大阪薬科大学報創刊50号記念号発行にあたって

広報委員会委員長 玄 番 宗 一



大阪薬科大学報は、広報活動の充実、学内コミュニケーションの活性化を図るとともに、発行時点での学内事情や教育研究活動を記録として残すこと等を目的に1981年（昭和56年）4月25日に創刊され、これまで原則として年2回発行してきましたが、このたび創刊50号記念号の発行を迎えることになり、たいへん喜ばしく存じます。偶然にも本年は本学創立百周年の記念の年でもあり、10月9日には記念式典、祝賀会も催され、またその他にも本学が1904年（明治37年）に大阪道修薬学校として発足してから100年の歴史を刻んだことを記念して、創立百周年記念事業委員会（委員長・川島康生理事長）により、特色ある記念事業が企画されました。本号ではこれ

らの記念事業を中心に、百周年の記念式典、記念市民講座、国際交流事業、本学資料室の整備事業および創立百周年記念募金事業に加えて、記念事業の一環として制定されたシンボルマークおよびロゴタイプに係る使用規程やこれらに関連する写真もできるかぎり掲載しました。

最後に、学報創刊50号記念号の発行にあたって、これまで執筆や企画、編集等の業務に携わってこられた教職員、関係各位の皆様方のご支援、ご協力に対し、深く感謝いたしますとともに、今後とも学報は60号、70号と継続して発行していく所存ですので、ご協力の程よろしくお願いいたします。



学歌斉唱（記念式典）



乾杯（祝賀会）

創立百周年記念式典を終えて

理事長 川島 康生

去る10月9日(土)に本学創立百周年記念式典と祝賀会を600名を超える来賓、同窓会員、育友会員、学生、教職員の出席を得て盛大に挙行し、募金活動は尚継続するものの、これで予定した百周年記念事業の大部分を無事終了することができました。2年間にわたり記念事業委員会を中心に、同窓会員、育友会員とともにその企画、準備と実行に取り組んで頂いた教職員各位に深甚の謝意を表するとともに、ご同慶の至りと存じます。

キャンパス移転という大事業を終えてから日が浅く、百周年記念事業に耐える体力があるのかという声も無くはありませんでしたが、それが杞憂に終わったことは教職員の一致した協力の賜と感じます。思えば、一昨年の平成14年9月11日に第1回の百周年記念事業委員会を開催致しましたときには、その事業内容について侃侃諤諤のご意見を聞かせていただきましたが、一旦基本方針が決められてからは着実に歩を進めて頂きました。そして、その分担によって仕事に多寡はあったものの、日常の業務に加えてこの事業にご参加いただき今日に至ったことを嬉しく思います。というのも、これによって本学の評価が一段と高まったことは明らかだからです。

シンボルマーク・ロゴタイプの制定、本学発祥の地における記念碑の建立、資料室の開設、記念市民講座の実施、学歌碑の建立などいずれも順調に完了しましたが、シンボルマーク・ロゴタイプをいかに利用するか、資料室をいかに運営していくかは今後に残された課題です。本学の発展に寄与するような利用と運用を期待しております。

これらの事業に加えて、これを機会に本学独自の奨学金制度を発足させることができたことは、ご賛同頂いた同窓会、育友会の皆様に加え、関連企業の幅広いご協力のお蔭と感謝しています。緒についた海外との交流事業を含めて必要な経費1億5千万円を賄うべく募金事業を行いましたところ、今日までに目標のほぼ90%を達成することができました。しかし乍らこれを100%達成したとしても本学の育英事業としてはまだまだ十分とは言えません。優れた学生を集め、安心して学業に打ち込めるような環境を作るため、法人としても今後とも努めていきたいところです。

記念式典にご出席頂いた方にはお持ち帰り頂き、又ご寄付頂いた方には送らせて頂きました百年史にみられる如く、本学の100年間の発展は幾多の危機を先人の努力によって乗り切ってきた賜です。現在は医薬分業の普及という追い風を受けて、薬剤師に対する需要がにわかに高まり、多くの大学、学部が少子化の煽りを受けて受験生の減少に悩まされているのを横目に、本学の経営はこのところ安定した状態を続けていますが、ここにきて薬学6年制が決定し、大きな波乱要因となっています。加えて、現下の薬剤師不足という事態に目を付けた多くの私学関係者が、薬科大学、薬学部の

新設を図り、その結果その卒業生の数は近い将来現在の1.5倍になるうとしています。薬剤師大幅過剰時代が訪れるのもそう遠くない将来のことと思われま

す。即ち6年制と少子化の2つの大問題が薬科大学、薬学部の将来に大きな陰を投げかけているのです。矢内原学長が、百周年記念式典の挨拶の中で、この薬学6年制が本学の百周年記念の年に決定したことに関わりの縁を感じると申されましたが、本学の第2の世紀への出発はこれを乗り切ってこそ開けるものと思います。本学としてはこれを危機ととらえるのではなく、これを好機ととらえて新しい門出にしたいものです。

薬学は従来化学系、物理系、生物系に分かれると言われてきましたが、これに医療薬学系が加わって新しい6年制、即ち医学部と同様に薬剤師を養成するための学部という色彩が濃くなるものと思われま

す。6年制一本にするのか4年制を一部に残すのか、それによって大学自体の姿も大きく変わるのでありますが、近い将来その決断を迫られることとなります。何れの道をとるにしても、少子化、薬学部林立の時代を勝ち抜く策は大きな研究成果をあげることと優れた卒業生を世に送ることにつきると思います。これを達成するために我々に求められるのは、弛まざる努力と従来の殻にとらわれない自由な発想によって道を切り拓くことでしょう。

時あたかも国立大学が法人化されました。新しく生まれ変わった巨人がその機能を十分発揮するためには若干の時間が必要と思えます。時代は私学の時代と言われますが、大きな資産をもち、ノウハウを蓄積した旧国立大学がフルにその力を発揮すれば、大変強い相手となることは言うまでもありません。その時迄の僅かの期間は私学にとって大きなチャンスです。遅滞は許されません。百周年の美酒に酔うのはこのあたりにして、今こそ振り鉢巻きで、我が大学の今後の発展に向けて第一歩を生み出すべき時であると考えます。

教職員の皆さん、「今までがこうであったから」という考えは捨てて、新しい時代の薬科大学のあるべき姿を考え、それに向かって学長を中心に一丸となって進んで頂きたいと思えます。法人のなし得ることはそれを可能にするような環境を構築することであると思っております。



脇田 修氏による記念講演
「道修町・大阪 薬の町
—大阪薬科大学発祥の地—」

大阪薬科大学創立百周年記念式典 式 辞

理事長 川 島 康 生

本日ここに、大阪薬科大学創立百周年記念式典を開催するに当たり、各界からのご来賓の皆様方にはご多忙の中枉りてご臨席賜りましたこと、衷心より御礼申し上げます。又ご出席頂いております本学の教職員、学生、卒業生、育友会の皆様、並びに長年本学の発展にご尽力くださいました多数の関係各位にも心より感謝申し上げます。

顧みますれば、学校法人大阪薬科大学は、今から丁度100年前に「薬種商にも薬剤師資格を」という時代の要請と大阪の薬業界の支援を得て、江戸時代以来の薬のまち、大阪道修町に、大阪道修薬学校として発足致しました。本年5月9日の創立記念日には道修町の塩野義製薬本社ビル前の植栽の一角に、「大阪薬科大学の前身である大阪道修薬学校が明治37年（1904年）この地に初代校主となる平山松治氏を中心として薬種商塩野吉兵衛氏らの尽力によって設立された」と記した「大阪薬科大学発祥の地」の記念碑を設置させていただきました。

本学はこの創立後、幾多の変遷を経て、大正14年（1925年）には帝国女子薬学専門学校となり、爾来、我が国の女子薬学教育の中心的役割を果たしてまいりました。

昭和25年（1950年）、学校教育法第4条により、大阪薬科大学の設置が認可され、さらに昭和50年に大学院修士課程、昭和59年に大学院博士課程の設置が認可され、名実共に我が国における代表的な大学院併置の私立薬科大学として認知され、今日に至っております。

この間、戦争などの苦難を乗り越えて発展し、我が国で4番目に古い伝統ある私立薬科大学として、今日までに2万人近くの有為な人材を世に送り出し、卒業生は薬業界を中心に、広く産業界、学界、官界で活躍しています。

一方、平成8年には、それまで60有余年松原市にありましたキャンパスを現在の高槻市奈佐原の地に移し、恵まれた環境のもとに施設設備を一新いたしました。

近年我が国は世界一の長寿国として注目を集めてきましたが、経済の停滞とともにこれを維持してきた国民皆保険制度にも制度疲労の色がみられ、その改革のための対策が色々と講じられているところで、医療の一端を担う薬学を取り巻く情勢も、それに伴って目まぐるしく転換しつつあります。

医薬分業の進展はその端緒であり、医療の高度化とともにこれら薬剤師を取り巻く環境の変化に対応するため、優れた薬剤師の育成確保が強く社会的に要請されてきたところであります。そしてその帰結するところが薬学教育修業年限の延長であります。



本学ではこれを視野に入れたカリキュラムの抜本的改革を行うとともに、高度な薬剤師養成という面から付属機関として大学附属薬局を平成11年から設置し、臨床医療薬学教育の強化を図ってまいりました。

平成14年には大学院に臨床薬学コースを設け、又同年ハイテクリサーチセンター整備事業を計画し、採択されるなど、教育研究機能の充実を継続して図っている所です。

他方、昭和58年からは卒業教育のための公開教育講座を実施し、又、平成6年からは松原市や高槻市薬剤師会等と共催して市民講座を実施するなど、地域との連携の強化にも努めてまいりました。

今回百周年の記念事業としては、シンボルマーク・ロゴタイプの制定、資料室の整備、先に述べました発祥の地の記念碑の建立、学歌碑の建立、記念市民講座の開催、本日お持ち帰り頂きます本学百年史の編纂等を企画し、そのすべてを順調に完了し、又長年の懸案でありました学部学生、大学院学生に対する本学独自の奨学金制度も、同窓会員を始めとする関係各位のただならぬご支援によりまして発足させることができました。加えて、百年を記念した海外との学術交流事業にも着手致しております。本日の式典に際してこれらの事業について報告できますことを無上の喜びとし、関係各位に深甚の謝意を表する次第です。

近年における薬科大学を取り巻く環境は必ずしも安定したものとは申せませんが、本学は21世紀の医療の一端を担うことのできる倫理観と幅広い視野をもった“創造性豊かな研究者”“人間性豊かな薬剤師”の育成を目標とし、100年の伝統に甘んずることなくそれを踏み台として今後とも日々改革に取り組んでゆく所存であります。

終わりに臨み、明日からの新しい100年に向けての第一歩を踏み出すに当たり、教職員一同には一致団結して更なる研鑽に努める決意を新たにすることを期待し、関係各位には引き続きご厚情、ご支援を賜りますことをお願い申し上げます。

大阪薬科大学創立百周年記念式典 ご挨拶

学長 矢内原 千鶴子

本日ここに、多くのご来賓、ならびに本学同窓会、育友会の皆様方のご臨席のもとで、大阪薬科大学創立百周年を祝うことが出来ますこと、本学教員、学生ともども心より嬉しく存じます。100年に一度という記念すべき喜びのこの日に、私どもが立ち会うことができたのは、ひとえにご臨席の皆様方、過ぎ去った本学の100年を支えてこられた数知れぬ多くの関係者の方々のお陰と深く感謝申し上げます。

大阪薬科大学100年の歴史の、最後の四年有余の関わりに過ぎない私が、偶然というのはあまりに軽々ではありますが、ここでご挨拶申し上げさせて頂くことは、誠に幸運であり光栄ではあります。しかし、一方では僭越に過ぎるという思いからのがれることができないのも事実であり、100年の歴史をずっとりと重く感じているところであります。

本学は言うまでもなく私立大学として、国立大学にみるように、大きな力に支えられて、一本道の100年を歩んできたわけではありません。また、開学の祖と呼ばれる先人により創学されたものでもありません。関係の多くの人々の、薬学教育、薬剤師・薬学技術者・研究者養成教育への強い志と、情熱と、力が、繰り返しおこった大学経営の危機を克服し、紆余曲折を経つつも、今日までの大阪薬科大学を支え続けてきたと言えます。それがまた、現在に生きる本学の、新しい時代に対応する柔軟な全学協力体制を強めることができる結果につながっていると言っても過言ではありません。

本学の100年を支えて、今日の誇るべき発展を現実のものとしてこられた歴代の本学法人関係者、教職員、学生、卒業生、その他すべての関係者の方々に心底より敬意を表するところであります。

平成8年、松原学舎より、現在の高槻学舎に移転し、朝な夕な、四季の移り変わりを肌を感じる、豊かな自然と静けさの中で、千数百人の学生、教職員が、互いに親しく、身近に触れ合いながら、毎日を送ることができる環境が整いました。移転前後の、一種落ち着かない雰囲気の中にあった学内も、平穏な日常を取り戻し、本学における、教育研究体制の改革の実感と、更なる充実への胎動が、感じられる今日この頃であります。

今、薬学教育の激動期を迎えて、大阪薬科大学が、新たな100年に向かっての歩みを、はじめようとするこの時、私どもにとって、高槻の新学舎は、何ものにも勝る贈物であったと、今更ながらに実感しているところであります。色々な意味において、決して容易ではなかったこの大事業を決断され、推し進められましたご関係の皆様方に、心より感謝申し上げます。



新しい酒は新しい革袋に。私どもは今、新しい100年を、この新しい環境のもとで歩みはじめました。しかし、それは、松原での、そして遠く遡って、道修町での本学誕生のその日より、営々として積み重ねられてきた、偉大な遺産の上に立つものであることは、申し上げるまでもありません。

本学薬学部・薬学研究科は、薬と人にかかわる、総合的な科学技術教育の推進を理念として、学部においては、幅広い教養を身につけ、豊かな人間性を育てるとともに、薬学の学問的な基盤に立った、基礎・応用薬学教育と、薬剤師をはじめとする医療薬学関連職能につながる実践的教育を、いずれに偏ることなく行い、薬学関連職能の多様性に対応できる人材の育成を目指しています。また、薬学研究科においては、薬学分野における、高い研究能力や高度の薬学関連専門職に必要な能力をもつ人材の育成を目的としています。

薬学教育新制度施行の決定が、本学創立百周年の年になされたことに、深い意義を感じているところであります。100年の歴史と伝統に、力強く支えられた、本学独自の、新しい薬学教育研究のあり方を確立すべく、全学の力を結集しているところであります。

薬学教育新制度に、その新しい時代の到来を感じつつも、一方では薬学教育の危機も、合わせて予感せざるを得ない現実があることも否めません。いずれに向かうか、現在も未来も含め、薬学教育に携わる人々の全てが背負わなければならない重い責任と言えましょう。

独自の確固たる理念と、目標と、決意と、誇りのもと、100年の歴史と伝統が今に生き、未来に生きて、大阪薬科大学に新しい薬学教育研究の場が確立されることを信じ、かつ念じて止みません。

最後に、本日、公私ともにご多用のところまた、異常な天候の中を本式典にご臨席賜りました多くの皆様方に重ねて厚く御礼申し上げますとともに、今後ともなお一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

大阪薬科大学創立百周年記念市民講座を終えて

創立百周年記念市民講座委員会委員長 馬場 きみ江

第18回市民講座は、本学の創立百周年記念事業の一環として、本学（高槻市）を離れ、IMPホール（大阪ビジネスパーク）において記念市民講座として開催いたしました。

講師には、ノンフィクション作家の柳田邦男先生をお招きいたしました。先生は、「現代人の生と死」をテーマに数多くのドキュメンタリー作品を執筆され、また、最近では終末期医療、脳死問題、臓器移植、医療事故などにも積極的に発言されていますが、今回は「生きがい」は人生の妙薬をテーマに、①いのちの輝きをめぐる3つのエピソード ②なぜ、今、「生きがい」なのか ③「生きがい」のジレンマ ④豊かさの中の子どもの不幸 ⑤「生きがい」の作り方、支え方 ⑥医療人にとっての「生きがい」 ⑦「生きがい」と新しいライフサイクル論などを中心にご講演いただきました。

当日は、485名の受講者があり、先生のご講演は、

非常に感銘深く、受講された皆さんのこれからの人生の良きアドバイスになったことと思います。また、先生の執筆された書籍を紀伊國屋書店に委託して会場ロビーにおいて販売したことも受講者に大変好評でした。

このように創立百周年記念市民講座を成功裏に終わることができましたのも、関係各位の皆様のお力添えの賜であると深く感謝しております。

最後になりましたが、本講座の開講にあたり、ご共催頂きました（社）日本薬学会近畿支部、（社）大阪府薬剤師会、（社）大阪府病院薬剤師会、大阪薬科大学同窓会、並びにご後援頂きました大阪府、大阪市、高槻市、高槻市教育委員会、高槻市薬剤師会に厚く御礼申し上げます。

また、貴重な資料をご提供頂きました協賛企業各位に深く感謝申し上げます。



柳田邦男氏



講演風景



花束贈呈

資料展示室の整備について

資料室整備委員会委員長 坂田 勝治

本年、大阪薬科大学は創立100周年を迎え、それを記念する12の事業の一環として、「資料室の整備」が企画されました。当初、記念事業としては別に、「松原校舎の鐘・電灯展示委員会」が設置されましたが、資料としての共通性から二つの委員会が合同し、12人が共同で作業することになりました。

本学は、明治37年（1904）5月9日に道修町に大阪道修薬学校として発足して以来、南久太郎町、天下茶屋、滝井、高見の里、高槻へと、学びの場所を変えて発展してきました。その本学の変遷の歴史を辿り、各時代の学生の姿を髣髴させ、また薬学教育に関係した一次資料を収集・展示することが、この整備計画の目的です。もともと本学が高槻に移転した時、事務・図書館棟4階の書庫のさらに奥に、「資料室」と名付けられた小さな部屋がありました。その部屋を整備し直して、展示室とすることでした。

委員会としては設計に先立って、既設の大学の医学史料館や薬学資料博物館などの見学を重ねた上で、全体の構想を検討してきました。重点を置いたのは、限られたスペース内で、本学の歴史の大きな流れと学生像を写真パネルで概括的に展示し、詳しい事実関係は年表で示し、本学に残っている実験器具類や学業関係の生の資料を展示することでした。また、

本学の草創期から時を告げてきたと思われる時鐘と、松原校舎新築以来、玄関の壁に取り付けられていた電灯をこの室内に展示し、さらに、短時間で本学の歴史が概観できるように、20分のDVDビデオを作成し、大型プラズマテレビで上映することを計画しました。そしてこれらを、さらなる資料収集を念頭において、今後の変更も可能なようにできるだけ移動可能式に設置することでした。

作業が完了した今の時点では、学内の研究室や事務局に保管されていた物や、一部の卒業生や同窓会関係者のご協力によって、一応の仮の展示品を並べて、体裁を整えました。しかし今後は、できるだけ広範囲の卒業生や関係者各位のご協力を仰いで、本格的に資料を収集することが必須であり、本学内の各部署毎に保管されている現有の資料なども、時間をかけて統一的に整理していく必要があります。

本委員会は、施設としての資料室の整備が課せられた仕事であります。これをどのように運営していくかは、今後設置される予定の委員会で検討されることになっております。とにかく、ささやかではありますが、この資料室を、在学生、卒業生、教職員、本学に関係する全ての人にとっての共通の場として、ご利用いただければありがたいです。



資料展示室入口から前室を望む



資料展示室設置の時鐘



資料展示室の
展示ケース内



前室設置の松原校舎玄関灯と写真

クイーンズランド大学との学術交流協定締結

学 長 矢内原 千鶴子

去る11月8日、大阪薬科大学はクイーンズランド大学 (The University of Queensland) と学術交流協定を締結することとなり、本学からは矢内原千鶴子学長 (国際交流提携委員会委員長)、田中一彦教授 (同委員)、秋月延夫総務課長 (同委員) が現地へ赴き、クイーンズランド大学において、太田房江大阪府知事およびオーストラリア連邦クイーンズランド州政府関係者同席のもと調印式が行われました。

この協定は、本学が創立百周年記念事業の一環として進めている国際交流事業の一つであり、奥本務高槻市長のご尽力と大阪府のご協力を得て、大阪府と友好交流関係にあるクイーンズランド州政府のご紹介により実現したものです。

クイーンズランド大学は、オーストラリアの東北部に位置するクイーンズランド州の州都ブリスベン市にあります。同大学は、同国の主要な教育研究機関の一つであり、クイーンズランド州では、最大規模で最も古い歴史を誇り、本学と同じく薬学部を有しています。

今回調印した両大学間の学術交流協定に基づく事業として推進に同意した事項は、①学生の交流、②共同研究、③教員の交流であります。今後、早急にこれらの事業を実行に移す予定にしていますが、これらは、本学が目標としている「世界的視野に立つ創造性豊かな薬剤師、薬学研究者の育成」に大いに寄与するものと期待しています。百周年記念事業の一つである国際交流事業の第一歩として、大阪府、高槻市、クイーンズランド州関係各位のご支援が得られたことはあらゆる面において大変幸先の良いことであり、積極的な国際化を通じ、今後の本学の様々な面での発展・飛躍に繋がることを期待します。



調印する矢内原学長とTrevor Grigg クイーンズランド大学副学長 (中央は太田房江大阪府知事)



大阪市立大学大学院医学研究科と 学生交流協定締結

大阪薬科大学大学院薬学研究科は、大阪市立大学大学院医学研究科との間で学生交流協定を締結することになり、11月1日、その協定書に調印しました。

大阪薬科大学シンボルマークおよびロゴタイプ使用規程の制定について

広報委員会委員長 玄 番 宗 一

創立百周年記念事業の一環として、創立百周年記念事業委員会（委員長・川島康生理事長）の意を受け、同専門委員会の一つである、大学ロゴマーク作成委員会（委員長・栗原拓史教授）において鋭意検討され、本学のシンボルマークとロゴタイプが制定されました。その制定の経過やシンボルマークの象徴するところについては、学報48号（4頁）に理事長が詳しく述べておられますのでご

参照ください。

このたび、そのシンボルマークおよびロゴタイプの積極的な活用を図るため、同使用規程を以下のように定めました。今後、同規程に則り関係各位が、名刺や封筒、便せんはもとより、各部署の多様な企画物（例えば、各種印刷物、案内標示や薬袋等）にも、大いにご利用くださることを期待しております。

大阪薬科大学シンボルマークおよびロゴタイプ使用規程

- 第1条 この規程は、大阪薬科大学シンボルマークおよびロゴタイプの使用に関し、必要な事項を定める。
- 第2条 大阪薬科大学に在籍する利用者は、品位を損なわないように配慮し、広くシンボルマークおよびロゴタイプの普及を図る。
- 第3条 前条以外の者が、シンボルマークおよびロゴタイプの使用を望む場合は、広報委員会委員長の許可を得なければならない。
- 第4条 シンボルマークについてはメインカラーをブルーとするが、デザインの展開によっては、大阪薬科大学としての格調を損なうことなく親近感を表現できる色を使用しても構わない。
- 第5条 シンボルマークに組み合わせて使用できるロゴタイプは、「大阪薬科大学」または「Osaka University of Pharmaceutical Sciences」とする。変形したり字間をあけるなど組み方を変えたり、他の書体を使用してはならない。
- 第6条 広報委員会委員長は、本規程に著しく違背するときには、シンボルマークおよびロゴタイプの使用許可を取り消し、または使用を停止させることができる。
- 第7条 この規程の改廃は、拡大教授会の議決を要する。

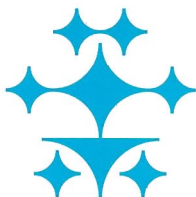
付記

現学章は廃止するものではないが、今後、積極的にシンボルマークおよびロゴタイプの活用を図る。

付則

この規程は、平成16年10月28日から施行する。

シンボルマーク



ロゴタイプ

大阪薬科大学
Osaka University of Pharmaceutical Sciences

大阪薬科大学

創立百周年記念募金事業にお力添えを

創立百周年記念事業募金委員会

募金目標額1億5千万円を掲げて、平成15年4月から始めました、創立百周年募金事業の平成16年10月31日までの入金状況は、13,336.9万円で、その達成率は約89%です。これまでに募金事業にご協力賜りました皆様には感謝申し上げますとともに、本学にゆかりのある皆様には引き続き、創立百周年募金事業にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

募金目標額 1億5千万円

1. 教育奨学基金の創設 1億円
2. 国際交流基金の創設 4千万円
3. 資料室の整備・充実 1千万円

募金期間 平成15年4月1日～平成17年3月31日

(平成16年10月31日入金分まで)

募金区分		目標額(万円)	入金額(万円)	達成率(%)
(法人)		5,000	7,113	142
(個人)		10,000	6,782.9	68
個人の内訳	同窓会	7,000	4,237.4	61
	育友会	1,500	1,329.5	89
	理事・監事・評議員 教職員・旧職員	1,500	1,216	81
合計		15,000	(※ 13,895.9) 13,336.9	89

(※本学卒業生の理事・評議員、教職員他の寄付金は、同窓会の区分でも計上されていますので、実際の寄付金の合計は13,336.9万円です。)



学歌碑



資料展示室の年表、胸像、シアター、写真パネル等

薬学新教育制度施行に向けて

学 長 矢内原 千鶴子

本年は大阪薬科大学にとっては、創立100周年というかけがえのない記念すべき年でありました。関係者は改めて本学がわが国の薬学教育研究に果たしてきた役割の大きさを実感したところであります。奇しくも時を同じくして、薬学教育年限延長に関わる「学校教育法」、薬剤師国家試験受験資格に関わる「薬剤師法」の改正が決定されました。130～140年にわたるわが国薬学教育研究有史以来、大戦直後のそれに次ぐ大改革であり、その目的は、“医療技術の高度化等に対応するため、大学の薬学を履修する課程のうち、臨床にかかる実践的な能力を培うことを主たる目的とするものの修業年限を6年とする必要がある”（学校教育法改正案提出理由、文部科学省）との理由に基づいています。大学では新しい実践薬剤師像を求めて、その養成教育の実現と確立に歩み出すこととなりました。

巷間、「薬学教育6年制」という文言がキャッチフレーズのごとく流布しています。しかし、前記の理由からすれば、これは必ずしも正しい表現とは言えず、具体的により正確には「実践臨床薬剤師養成教育6年制」と認識すべきでありましょう。4年制課程の設置も認められ、これもまた“薬学教育課程”であることを忘れてはならないと思います。

新設される薬学教育6年制課程の目的達成のために、大学関係者が今後特に真剣に考えなければならないのは、言うまでもなく「薬局・病院における長期実習」と「医療（臨床）薬学系科目の充実」であります。しかし、薬剤師業務についてほぼ無知に等しい大学教員にとっては、現場に任せた教育だけで何とかその目的が果たされるものとする幻想に近い一種の無責任さが今なおあるのではないのでしょうか。誤解を承知の上で言えば、薬局も含め現在のわが国の医療の現場が新しい薬学教育制度の掲げる新時代の薬剤師養成の場としての要請に十分対応できるものであるか、大学教員は冷静にこれらを評価してかからなければならないと思います。自身の経験からも、薬局・病院薬剤師の日々の奮闘と努力を否定するものではありませんが、現場の薬剤師ならびにその業務の実状、また、特に1万人を超える薬学生の実習を引き受けなければならない施設の多様性とその中での薬剤師とその業務の格差を考えると、全ての薬学生に対し、真に新しい時代を担う薬

剤師を養成していかなければならない教育の責任が果たせうのだろうかと不安を感じるのは私だけではないと思います。薬剤師とその業務が現状の現場のままであってはならないことを考えるとき、今後の新しい薬剤師の養成とその業務のあり方に関する展望と実践は、多くは大学教員の責任と言っても過言ではないと思います。

先にも触れたように、4年制課程もまた薬学教育の重要な柱であります。ややもすれば、4年制課程は大学院に連なる研究者養成コースであるかの如くステレオタイプに語られていますが、中央教育審議会報告にもあるとおり、4年制課程そのもののもつ意義と役割はそれに限られたものではないでしょう。また最近では、薬剤師免許をもたない4年制課程薬学卒業者に対して想定しうる多様な進路の中には、将来薬局や医療現場も含まれてくることは市場の開放が進む社会の否定できない趨勢であるとの予測もでてきています。4年制薬学教育課程を魅力あるものにするには、薬系大学の将来を考えると、なおざりにはできない重大な課題と考えます。また、学部4年十大学院2年課程を経た学生への薬剤師国家試験受験資格授与に関し、大学関係者の中にすらそれをマイナス思想的に論ずる風潮がありますが、そうした経歴を持つ薬剤師の存在は、医療現場においてもその業務の発展への対応という意味において大きな力となるのではないのでしょうか。大学関係者のポジティブな姿勢（「学部4年十大学院2年で資格を与えよ」という意味ではなく）が望まれてなりません。

大阪薬科大学の新しい100年の出発に、時を同じくして薬学教育新制度が導入されることは極めて幸先の良いことと思っております。新制度への本学の対応は未だ決定されておませんが、100年の歴史と伝統にふさわしい、そして薬学教育の新しい時代を築く行手を期待しています。今回の大改革は、自ら積極的に主張したり、その過程に具体的に携わることのなかった大半の大学関係者にとっては、他からのお仕着せの面も否定できず、それだけに今後新しい薬学教育の展開と確立のために自主的に果たさなければならない役割は極めて大きく、その楽観を許さない将来の帰趨への責任を負うことへの真摯な自覚が必要と考えます。



久保田晴寿元学長追悼の辞

学長 矢内原 千鶴子

去る8月31日、大阪薬科大学元学長久保田晴寿先生のご逝去の報に接しました。その直前までお元氣にお過ごしとのことであっただけに、驚きとしか言い表しようのない想いが先立つばかりでありました。

久保田先生は、平成3年4月1日、本学学長としてご就任になられました。同年1月までの4年間、徳島大学学長としての重任の職にあられ、特に薬学のご出身でもあることから大きな期待を込めて本学にお迎えしました。時あたかも大学設置基準改正に始まる終戦以来の大きな大学改革が行われようとしていた時でもありました。本学でも久保田学長のもと、教職員全員が協力していち早くカリキュラムの抜本的な改正、授業出席制度や、学生に有利な学業成績評価法の導入を行うとともに、入試制度の改革にも取り組み、“優れた資質を持った本学で薬学を学ぶ目的意識の明確な学生を獲得することを目指し”（大阪薬科大学報27号・平成4年12月10日発行）推薦入試および大学入試センター試験利用入試制度の導入を計画されました。現在本学では全国的にも特徴を誇る多様な入試制度を実施していますが、久保田学長によるこれらの新しい入試制度の導入はその嚆矢となりました。

また、“魅力的なキャンパスを作り教育研究環境を整備し、その質的向上を図る”（大阪薬科大学報26号・平成4年6月1日発行）目的で、松原学舎の現在地阿武山地区への移転の決定時期にも当たり、積極的にこれに取り組みられ、今日ある本学の発展の基盤を固めていただきました。また、先生ご在任中、本学は創立90周年を迎え、それを機に市民講座を創始され、合わせて公開講座の充実を図り、社会に開かれた個性的な魅力あふれる大学とすべく全力を挙げて努力されました。本学において先生は常に、薬科大学における薬剤師養成の教育的責任の重大さを強調され、一方、学生には薬学を学ぶことへの誇りを説き、教える側と教わる側の信頼関係を確かにするためのたゆまぬ努力をされてこられました。本学のために尽くされた数多くのご業績に対し、今更ながらに深い感銘と感謝にあふれる想いをいたしております。それだけにご生前、先生に親しくお目もじし、お教えいただく機会をもつことができなかつたことが誠に残念でなりません。わが国薬学関係者が誇りとする大先輩を大阪薬科大学学長としてお迎えできたことは誠に光栄であり、本学の教育研究の充実と大いなる発展の基盤を固めるためにご尽力賜りましたことに改めて厚く感謝申し上げますとともに、先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

故久保田晴寿元学長 ご略歴

昭和21年9月 京都帝国大学医学部薬学科 卒業
昭和22年4月 京都帝国大学医学部薬学科 助手
昭和26年1月 徳島大学徳島工業専門学校 教授
昭和26年4月 徳島大学薬学部 助教授
昭和29年1月 薬学博士（京都大学）
昭和32年3月 徳島大学薬学部 教授
昭和37年6月 フルブライト交換研究員（アメリカ合衆国：2年間）
昭和47年1月 徳島大学 薬学部長（昭和51年1月まで）
昭和61年1月 徳島大学 薬学部長（昭和63年1月まで）
昭和63年1月 徳島大学 学長（平成3年1月まで）
平成3年4月 大阪薬科大学 学長

功労者石黒武雄氏追悼の辞

大阪薬科大学同窓会副会長（昭和24年卒業） 堀 充



本学の功労者石黒武雄先生は、超大型台風22号が日本列島を駆け抜けた本年10月9日逝去されました。享年百。奇しくも当日は大阪薬科大学100周年式典挙行の日でした。

先生は明治37年（1904）8月5日、当時の東京市下谷区上野桜木町に出生されました。昭和4年（1929）3月、東京帝国大学医学部薬学科を卒業され、同学助手、助教授を経て、昭和16年（1941）4月、京都帝国大学教授に就任され、昭和34年（1959）10月、京都大学を退官、名誉教授とされました。その後も数々の要職に就任されております。ご経歴のうち、本学に関係のある部分を摘記しますと、昭和23年（1948）8月、帝国女子薬学専門学校評議員、理事、校長事務取扱にご就任、昭和25年（1950）3月、同上ご退任、同年4月、学校法人大阪薬科大学評議員、理事にご就任、昭和41年（1966）5月、同上理事長にご就任、昭和44年（1969）5月、同上理事、理事長を退任されました。その後、昭和52年（1977）5月、再び大阪薬科大学理事に就任、平成5年6月ご退任まで理事を続けられました。先生はご功績によって、昭和49年（1974）11月、勲三等旭日中綬章、昭和60年（1985）4月、勲二等瑞宝章を受章されています。

石黒先生について忘れてならないことは、本学の大学昇格にあたって奔走されたことであります。当時のことは「大阪薬科大学100年の歩み」に詳しく記述されていますのでご参照いただきたく存じます。そこで、私は当時のことを経験された細野百々子さん（昭和25年卒業）と、波部千代さん（同）からお伺いしましたことを述べさせていただきます。「思い返しますと、昭和24年、大学昇格の認可が降りなかった頃、この学校は財政難から大阪市に吸収されるか、カトリック系に売却されるところを、石黒先生のお陰で残ることができました。昭和25年2月に大学昇格の認可が降りた時、昇格の課題を一身に背負ってこられた石黒校長事務取扱は、自ら任務を全うし得たと判断され、辞意を表明し京大へ帰って行かれました。当時を知る者は、この時の話になると涙ぐんでしまいます。当時の同窓会会長と京大へ何度か足を運んだある時、僕でよかったら…と言うお言葉をいただいたその瞬間の感激が半世紀以上

経った今も忘れられませんと話してくれました。この度も石黒先生は100周年を見届けて遠いお国へ旅立たれたことでしょう」（細野）。「思い起せば、当時の先生のご多忙の中でのご尽力は並々ならぬものだったと思います。京大教授の職にあり乍ら、兼任で母校の校長をお引き受けになり、昇格への努力を惜しまれなかったこと、又当時の同窓会役員の方々の努力も相当なものだったと思います」（波部）。今ひとつの思い出は、クラス会と石黒先生のことです。「卒後、石黒先生は第一製薬の方へ移られましたが、社長の要職にあり、多忙な日々の中、私達のクラス会にも東京より来ていただきました、その席で先生は私学の誇りを語っていただきました。確か先生も旧制高校が甲南で、東大の方へ進まれたと思いますが、その時に私学教育が如何に大事かと言うことを体験を通して語っていただいた記憶がございます。先生と最後にお会いしたのは十年前の母校の九十周年記念行事の時でした。何時お会いしても温かな笑顔で私共に接していただきました。」（波部）。「卒後何年か経って多分お呼びしてもお越しいただけないと覚悟の上でクラス会の招待状をお送りしますと、大変お喜びいただき5、6回ご出席いただきました。戦後は、京大も共学になっていますが、男子校の時代が長かったせいか、はじめは、その宿で最高の部屋をお取りしていても、私の行きつけの宿がありますので同じ宿にはお泊りいただけませんでした。3回め位からやっとご用意した部屋にお泊りいただくようになりましたが、過分なお心遣いをいただきクラス一同驚き恐縮したものでした。宴会の席ではご幼少の頃野山を駆け回って遊んだこと等、少しのお酒でお顔を赤くして楽しそうに話して下さいました。思い出は尽きません」（細野）。

石黒先生は大阪薬科大学にとって大恩人に当たる方です。私どもは先生のご恩を忘れることなく、本学の更なる発展に努めたいと思います。

（本「追悼の辞」につきましては、石黒先生ご在職当時の学内事情に詳しく、また同窓会（クラス会）を通して先生とご交流をお持ちでした大阪薬科大学同窓会副会長 堀 充様に、玄番広報委員会委員長からご執筆を依頼いたしましたところ、ご快諾いただきました。ご寄稿を心より感謝申し上げます。）

平成16年度公開教育講座

公開教育講座委員会委員長 松村 瑛子

平成16年度公開教育講座は、梅田スカイビルにおいて「医療制度の変革」をメインテーマに、第37回〔7月24日（土）〕と第38回〔11月20日（土）〕を開催しました。

また、講演集については第37回までは一回分（一冊）1,000円で販売していましたが、本学創立百周年を記念し、第38回からは、受講者のうち希望者には完成後、無料で送付させていただくことになりました。

第37回大阪薬科大学公開教育講座

（参加者数90名 うち、本学卒業生42名）

日 時：平成16年 7月24日（土）

場 所：梅田スカイビルタワーウエスト36階会議室L

主 題：医療制度の変革（1）

演題/講師：「薬剤師をめぐる環境の変化～6年制時
における薬学教育をとおして～」
北海道薬科大学社会薬学分野教授

早瀬 幸俊 氏

「医療・薬事制度と社会～将来の薬局像
（一考察）～」

大阪府健康福祉部薬務課長

織田 美夫 氏



（早瀬氏）



（織田氏）

第38回大阪薬科大学公開教育講座

（参加者数82名 うち、本学卒業生45名）

日 時：平成16年11月20日（土）

場 所：梅田スカイビルタワーウエスト36階会議室L

主 題：医療制度の変革（2）

演題/講師：「薬剤師の過去、現在、将来」
（社）大阪府薬剤師会会長

児玉 孝 氏

演題/講師：「諸外国における医療教育・制度と薬剤師
～ヨーロッパの薬剤師を中心に～」

名城大学薬学部薬学教育開発センター
教育開発部門講師

飯田 耕太郎 氏



（児玉氏）



（飯田氏）

平成15年度学校法人決算

事務局長 肥 塚 敏 彰

去る平成16年5月25日（火）開催の理事会および評議員会において、学校法人大阪薬科大学の平成15年度決算が審議のうえ承認されましたので、資金収支計算書（総括表）、消費収支計算書（総括表）および貸借対照表を掲載します。

資金収支計算書（総括表）

（平成15年4月1日から平成16年3月31日まで）

収入の部 (単位 円)				支出の部 (単位 円)			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	2,394,000,000	2,406,670,000	△ 12,670,000	人件費支出	1,396,500,000	1,362,216,815	34,283,185
手数料収入	141,000,000	162,654,073	△ 21,654,073	教育研究経費支出	603,700,000	487,982,480	115,717,520
寄付金収入	16,000,000	66,190,000	△ 50,190,000	管理経費支出	447,800,000	487,544,304	△ 39,744,304
補助金収入	294,800,000	282,236,269	12,563,731	借入金等利息支出	167,500,000	167,423,712	76,288
資産運用収入	10,000,000	39,128,231	△ 29,128,231	借入金等返済支出	344,500,000	344,430,000	70,000
資産売却収入	0	1,202,932,114	△ 1,202,932,114	施設関係支出	15,900,000	7,429,668	8,470,332
事業収入	399,600,000	435,901,107	△ 36,301,107	設備関係支出	195,600,000	164,602,089	30,997,911
雑収入	41,100,000	42,066,374	△ 966,374	資産運用支出	15,000,000	1,613,763,026	△ 1,598,763,026
前受金収入	437,200,000	512,500,000	△ 75,300,000	その他の支出	165,500,000	177,154,997	△ 11,654,997
その他の収入	171,900,000	161,629,599	10,270,401	[予備費]	10,000,000	—	10,000,000
資金収入調整勘定	△ 547,800,000	△ 597,414,079	49,614,079	資金支出調整勘定	△ 136,500,000	△ 149,526,256	13,026,256
前年度繰越支払資金	2,323,000,000	2,407,496,297	—	次年度繰越支払資金	2,455,300,000	2,458,969,150	△ 3,669,150
収入の部合計	5,680,800,000	7,121,989,985	△ 1,441,189,985	支出の部合計	5,680,800,000	7,121,989,985	△ 1,441,189,985

消費収支計算書（総括表）

（平成15年4月1日から平成16年3月31日まで）

消費収入の部 (単位 円)				消費支出の部 (単位 円)			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	2,394,000,000	2,406,670,000	△ 12,670,000	人件費	1,411,500,000	1,377,755,475	33,744,525
手数料	141,000,000	162,654,073	△ 21,654,073	教育研究経費	989,600,000	885,053,084	104,546,916
寄付金	16,000,000	70,069,892	△ 54,069,892	管理経費	484,700,000	522,601,336	△ 37,901,336
補助金	294,800,000	282,236,269	12,563,731	借入金等利息	167,500,000	167,423,712	76,288
資産運用収入	10,000,000	39,128,231	△ 29,128,231	資産処分差額	0	4,561,131	△ 4,561,131
資産売却差額	0	416,981	△ 416,981	[予備費]	10,000,000	—	10,000,000
事業収入	399,600,000	435,901,107	△ 36,301,107	消費支出の部合計	3,063,300,000	2,957,394,738	105,905,262
雑収入	41,100,000	42,066,374	△ 966,374	当年度消費収入超過額	0	129,132,019	—
帰属収入合計	3,296,500,000	3,439,142,927	△ 142,642,927	当年度消費支出超過額	150,800,000	0	—
基本金組入額合計	△ 384,000,000	△ 352,616,170	△ 31,383,830	前年度繰越消費収入超過額	634,000,000	675,407,863	—
消費収入の部合計	2,912,500,000	3,086,526,757	△ 174,026,757	翌年度繰越消費収入超過額	483,200,000	804,539,882	—

貸借対照表

(平成16年3月31日現在)

資 産 の 部 (単位 円)			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	18,148,456,017	18,090,538,447	57,917,570
有形固定資産	16,071,481,271	16,327,300,933	△ 255,819,662
土地	8,722,722,664	8,722,722,664	0
建物	5,362,531,632	5,623,528,370	△ 260,996,738
構築物	87,342,823	106,175,065	△ 18,832,242
教育研究用機器	774,809,470	788,916,440	△ 14,106,970
その他の機器	57,521,305	66,874,774	△ 9,353,469
図書	1,066,553,373	1,019,083,616	47,469,757
車両	4	4	0
その他の固定資産	2,076,974,746	1,763,237,514	313,737,232
電話加入権	1,598,272	1,598,272	0
施設利用権	16,920,448	19,286,442	△ 2,365,994
有価証券	1,136,478,026	833,370,800	303,107,226
長期貸付金	4,000,000	4,000,000	0
退職引当金	857,000,000	842,000,000	15,000,000
保証金	60,978,000	62,982,000	△ 2,004,000
流動資産	3,450,440,357	3,322,540,599	127,899,758
現金預金	2,458,969,150	2,407,496,297	51,472,853
有価証券	787,209,465	698,592,033	88,617,432
未収入金	121,564,079	142,478,648	△ 20,914,569
商品	28,876,660	26,944,887	1,931,773
前払金	52,421,003	46,989,645	5,431,358
仮払金	1,400,000	0	1,400,000
立替金	0	39,089	△ 39,089
資産の部合計	21,598,896,374	21,413,079,046	185,817,328

負 債 の 部 (単位 円)			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	3,701,155,303	4,030,046,643	△ 328,891,340
長期借入金	2,844,300,000	3,188,730,000	△ 344,430,000
退職給与引当金	856,855,303	841,316,643	15,538,660
流動負債	980,395,885	947,435,406	32,960,479
短期借入金	344,430,000	344,430,000	0
未払金	104,558,023	104,631,403	△ 73,380
前受金	512,500,000	477,650,000	34,850,000
預り金	18,907,862	20,724,003	△ 1,816,141
負債の部合計	4,681,551,188	4,977,482,049	△ 295,930,861
基 本 金 の 部 (単位 円)			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	15,911,805,304	15,559,189,134	352,616,170
第4号基本金	201,000,000	201,000,000	0
基本金の部合計	16,112,805,304	15,760,189,134	352,616,170
消 費 収 支 差 額 の 部 (単位 円)			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費収入超過額	804,539,882	675,407,863	129,132,019
消費収支差額の部合計	804,539,882	675,407,863	129,132,019
負債の部、基本金の部 及び消費収支差額の部合計	21,598,896,374	21,413,079,046	185,817,328

ホームページを大幅に改善します

広報委員会委員長 玄 番 宗 一

本学の既設ホームページは、構成やカテゴリーが不明確、受験生に対する入試情報へのアクセスが困難、表示スピードが遅いなど様々な問題点があり、広報委員会では、これらを改善し、ホームページのリニューアルを平成16年12月公開に向けて進めています。

今回、リニューアルされるトップページデザインは、本学のシンボルマークが持つ爽やかなイメージを鮮やかな青を基調にデザインし、メインビジュアル部分は、アクセス毎に写真をランダムに表示します。

また、訪問者別メニューなどを設け、初めてホームページを訪れる方でも直感的に利用できる機能的なWEBサイトデザインを目指しています。

The screenshot displays the homepage layout for Osaka University of Pharmaceutical Sciences. At the top left is the university logo and name in Japanese and English. A navigation bar below the header contains five categories: 受験生の方へ (For Applicants), 在学生の方へ (For Current Students), 卒業生の方へ (For Alumni), 一般の方へ (For General Public), and 教職員の方へ (For Faculty/Staff). The main content area features a large banner image of the university building. Below the banner, there are several sections: a left sidebar with a vertical menu of categories like '大学案内' (University Information) and '教育・研究' (Education & Research); a central 'Topics' section with a featured article about a 100th anniversary lecture; a 'What's new' section with recent updates; and a right sidebar with a '資料請求フォーム' (Request Form) and another anniversary lecture notice. The footer contains links for '交通アクセス' (Access), 'リンク' (Links), 'このサイトについて' (About this site), and 'サイトマップ' (Sitemap), along with a copyright notice for 2004.

平成16年度前期授業・実習評価アンケートについて

教務部長 千熊正彦

平成11年の大学審議会答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について」に基づいて、大学の自己点検・評価の実施と結果の公表が義務化されていますが、本学の学生による授業評価アンケートは自己点検・評価の重要な項目に位置づけられます。昨年同様、今回も1～4年次生を対象に特別実習を除くすべての講義・実習・演習について実施されました。

今回からいくつかの設問の表現を変えました。設問2では、「板書が適切で授業の理解に役立ちましたか」を「板書やその他（プリント、OHP、ビデオ、液晶プロジェクター）による説明が適切で授業の理解に役立ちましたか（板書等を使用しなかった場合は0を記入してください）」に変更、設問11では、「授業内容のレベルは適切と思われますか」を「授業内容のレベルはあなたにとって適切でしたか。次の基準で回答してください。5－非常に難しい、4－難しい、3－適切、2－簡単、1－簡単すぎる」に変更しました。さらに、設問9および10では、それぞれ「指定されていない場合は0を記入してください」および「休講がなかった場合は0を記入してください」を追加しました。

全学年の平均値については、設問17の結果の3.08ポイントを除いて他の設問では3.50ポイント以上であり、過去の結果と大差はありません。

また、全学年の平均値について、平成16年度前期の結果を平成15年度前期の結果と比較すると、2つの設問を除いて変動は0.1ポイント以下でした。0.1ポイント以上の変動は、設問2および10で生じており、それぞれ0.25ポイント上昇、および0.14ポイント上昇でした。設問2の変動は全設問中で最大でしたが、これは、設問を実情に合わせてより詳しい表現に修正したことに起因しており、学生からの評価がより正しく反映されていると思われます。設問の表現を修正したもののうち設問11では、予想外に変化が小さく、0.04ポイントの変動でした。

本授業評価アンケート結果に対する教員側からのコメントやメッセージはファイルされ、学生に公開しています。また、同時に教員から教務部へのご意見・ご要望もいくつかありました。例えば、設問10に関連して、「一度も休講をしなかった場合、学生

は全員が0ポイントをつけるべきなのに必ずしもそうでない」という意見がありました。先にも述べましたが、この設問に関しては、表現を修正することによっていくらか改善されましたが、まだ十分でないとも考えられます。さらに、受講学生数や講義室の音響、温度管理、あるいは黒板の位置に関するご意見など、講義を快適に行うための改善点をご指摘いただきました。これらのご意見・ご要望に対しましては、教務部から個別に回答したうえで、できる限り変更や改善を実施しています。

なお、アンケートの実施時期については、講義の最終回ではなく少し早めに設定することにより、学生の意見や評価を当該年度の学生にフィードバックしていただくことも可能です。

本授業・実習評価アンケートの目的は、各担当教員が自分の授業の改善に役立てることであり、また学生が自分の受講態度や意欲を省みることであります。本アンケートが本学の授業・実習の改善に十分に活かされることを願っています。

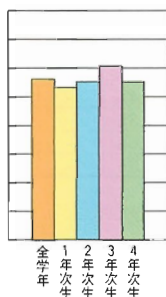
	延べ履修人数	延べ回答人数	回答率
全学年	14,363名	9,387名	65.4%
1年次生	5,600名	4,245名	75.8%
2年次生	3,808名	2,475名	65.0%
3年次生	4,311名	2,392名	55.5%
4年次生	644名	275名	42.7%

2004年度前期授業評価アンケート集計

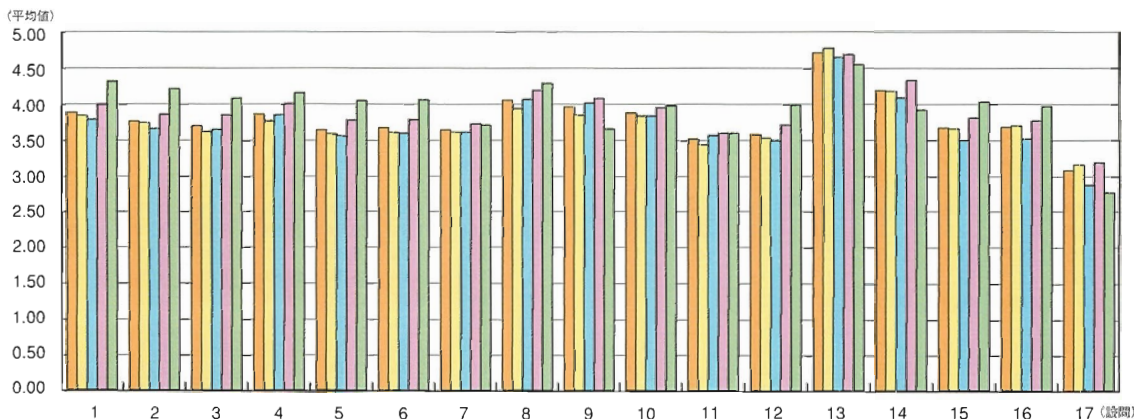
設 問

1. 口調が明瞭で聞き取りやすかったですか
2. 板書やその他（プリント、OHP、ビデオ、液晶プロジェクター）による説明が適切で授業の理解に役立ちましたか（板書等を使用しなかった場合は0を記入してください）
3. ポイントをよく押さえ、うまく要約されていきましたか
4. 授業は、「授業の内容」（シラバス）に沿って進められましたか
5. 授業は、説明が十分で理解しやすかったですか
6. 授業に対する関心を高める努力がなされていきましたか
7. 私語や態度の悪い学生に対し注意するなど、静かに授業が行われるように工夫されていきましたか
8. 授業は、時間通り始まり時間通り終わりましたか
9. 指定されたテキストや教材は適切に使用されていきましたか（指定されていない場合は0を記入してください）
10. 休講があった場合、その補いは十分にされていきましたか（休講がなかった場合は0を記入して下さい）
11. 授業内容のレベルはあなたにとって適切でしたか。次の基準で回答してください（5－非常に難しい、4－難しい、3－適切、2－簡単、1－簡単すぎる）
12. この授業を総合的に評価してください。次の評価基準で回答してください（5－非常に良い、4－良い、3－普通、2－あまり良くない、1－良くない）
13. あなたは、この授業によく出席しましたか
14. あなたは、私語などせず授業に集中しましたか
15. この授業を受けてその分野に対する関心が高まりましたか
16. この授業は、あなたにとって有意義なものでしたか
17. あなた自身、授業を理解するよう努力（予習・復習等）していませんか

回答は、5-そう思う(5ポイント)、4-どちらかといえばそう思う(4ポイント)、3-どちらともいえない(3ポイント)、2-あまりそうは思わない(2ポイント)、1-そうは思わない(1ポイント)から選択。ただし、設問2, 9, 10については、0-該当しない(0ポイント)を設けている。また、各設問において回答がない場合は、集計から除外している。



【表の見方】
設問ごとに平均値を左から順に、全学年、1年次生、2年次生、3年次生とグラフにしています。



全学年

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.88	32.5%	36.7%	20.3%	7.4%	3.0%	-	0.1%
2	3.76	26.1%	33.9%	23.3%	8.1%	3.0%	5.4%	0.2%
3	3.70	24.7%	35.3%	27.8%	8.8%	3.1%	-	0.2%
4	3.86	27.2%	35.9%	32.6%	2.4%	1.2%	-	0.8%
5	3.64	23.8%	35.1%	26.9%	10.0%	4.1%	-	0.1%
6	3.67	23.2%	34.7%	30.5%	7.9%	3.4%	-	0.3%
7	3.64	22.5%	32.6%	34.4%	7.0%	3.2%	-	0.2%
8	4.05	39.0%	35.5%	18.4%	4.6%	2.2%	-	0.2%
9	3.96	31.5%	28.0%	18.6%	5.5%	1.9%	14.3%	0.3%
10	3.88	12.6%	7.5%	9.5%	1.4%	1.3%	66.7%	1.0%
11	3.52	11.6%	33.8%	49.9%	3.3%	1.0%	-	0.4%
12	3.58	17.8%	36.6%	34.0%	8.2%	3.1%	-	0.3%
13	4.71	79.5%	13.9%	4.9%	0.8%	0.6%	-	0.3%
14	4.19	45.2%	33.7%	16.3%	3.2%	1.2%	-	0.3%
15	3.67	24.3%	33.5%	30.3%	7.7%	3.9%	-	0.4%
16	3.68	24.6%	33.6%	30.0%	7.6%	3.9%	-	0.4%
17	3.08	12.0%	21.5%	39.8%	15.3%	11.0%	-	0.4%

1 年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.84	33.0%	35.5%	18.6%	8.7%	4.1%	-	0.1%
2	3.74	25.7%	31.6%	22.9%	8.6%	3.2%	8.0%	0.1%
3	3.62	22.6%	33.1%	31.0%	9.5%	3.6%	-	0.2%
4	3.77	22.9%	36.0%	36.6%	2.9%	1.1%	-	0.5%
5	3.59	22.7%	33.4%	28.6%	10.6%	4.6%	-	0.1%
6	3.61	21.1%	33.5%	33.4%	8.2%	3.4%	-	0.3%
7	3.61	21.2%	33.3%	34.0%	8.0%	3.5%	-	0.1%
8	3.94	34.9%	35.2%	21.5%	5.7%	2.6%	-	0.1%
9	3.85	27.1%	24.9%	19.2%	6.8%	2.1%	19.9%	0.1%
10	3.84	10.3%	5.9%	8.6%	1.6%	1.0%	72.1%	0.5%
11	3.44	9.6%	30.6%	54.4%	3.9%	1.1%	-	0.4%
12	3.53	15.3%	35.9%	37.7%	8.3%	2.8%	-	0.1%
13	4.78	84.3%	10.4%	3.9%	0.9%	0.3%	-	0.1%
14	4.18	46.2%	32.3%	16.2%	3.7%	1.4%	-	0.2%
15	3.66	23.5%	33.7%	31.7%	7.1%	3.8%	-	0.2%
16	3.70	24.9%	34.4%	29.3%	7.5%	3.6%	-	0.2%
17	3.16	14.3%	23.3%	37.1%	13.6%	11.3%	-	0.3%

2 年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.79	28.9%	34.2%	25.9%	8.7%	2.3%	-	0.0%
2	3.66	24.0%	32.8%	26.5%	10.0%	3.6%	2.9%	0.1%
3	3.65	23.8%	34.7%	27.1%	10.9%	3.4%	-	0.1%
4	3.85	28.6%	31.4%	36.1%	2.6%	0.8%	-	0.6%
5	3.56	23.4%	31.9%	26.6%	12.8%	5.1%	-	0.1%
6	3.60	23.7%	31.6%	30.0%	10.2%	4.4%	-	0.1%
7	3.61	20.8%	31.9%	36.7%	7.7%	2.7%	-	0.2%
8	4.07	39.3%	35.7%	18.7%	4.2%	1.9%	-	0.2%
9	4.02	34.2%	28.7%	19.8%	4.3%	1.2%	11.6%	0.2%
10	3.84	9.6%	6.6%	9.9%	0.8%	0.8%	71.6%	0.6%
11	3.57	13.8%	34.0%	47.5%	3.2%	1.1%	-	0.5%
12	3.50	18.3%	33.7%	32.2%	11.0%	4.5%	-	0.2%
13	4.65	74.8%	16.9%	6.5%	1.1%	0.6%	-	0.2%
14	4.09	39.5%	34.7%	21.2%	3.3%	1.0%	-	0.2%
15	3.50	21.8%	28.6%	32.2%	11.6%	5.6%	-	0.2%
16	3.52	21.9%	29.4%	32.3%	10.4%	5.7%	-	0.3%
17	2.88	8.2%	16.4%	43.0%	19.7%	12.4%	-	0.3%

3 年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	4.00	33.9%	40.3%	18.9%	4.6%	2.0%	-	0.3%
2	3.86	27.4%	38.0%	22.2%	5.8%	2.4%	3.8%	0.4%
3	3.85	28.3%	38.8%	23.8%	6.3%	2.3%	-	0.4%
4	4.01	32.1%	40.0%	23.3%	1.3%	1.7%	-	1.6%
5	3.78	25.1%	40.1%	25.0%	7.0%	2.6%	-	0.3%
6	3.79	25.5%	38.9%	27.0%	5.4%	2.8%	-	0.4%
7	3.73	26.3%	32.4%	32.5%	4.9%	3.5%	-	0.5%
8	4.19	45.2%	35.8%	13.5%	3.0%	2.2%	-	0.4%
9	4.08	37.6%	32.5%	15.5%	4.1%	2.2%	7.5%	0.6%
10	3.95	20.2%	11.4%	11.0%	2.0%	2.5%	50.7%	2.2%
11	3.60	12.7%	39.1%	44.4%	2.5%	0.9%	-	0.5%
12	3.71	20.6%	40.0%	30.5%	5.7%	2.6%	-	0.6%
13	4.69	77.3%	16.1%	4.7%	0.4%	1.0%	-	0.5%
14	4.33	51.0%	35.0%	10.2%	1.9%	1.3%	-	0.6%
15	3.81	27.3%	37.2%	26.6%	5.6%	2.6%	-	0.6%
16	3.77	26.3%	35.2%	29.6%	5.4%	3.0%	-	0.6%
17	3.19	12.2%	23.7%	42.3%	13.2%	8.0%	-	0.7%

4 年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	4.32	44.4%	45.5%	8.7%	1.1%	0.4%	-	0.0%
2	4.21	40.4%	42.9%	10.5%	4.0%	0.4%	1.1%	0.7%
3	4.08	33.5%	44.0%	20.4%	1.8%	0.4%	-	0.0%
4	4.16	37.8%	38.9%	21.8%	0.0%	0.0%	-	1.5%
5	4.05	30.9%	45.8%	20.7%	2.5%	0.0%	-	0.0%
6	4.06	33.5%	42.5%	20.7%	3.3%	0.0%	-	0.0%
7	3.71	25.8%	29.5%	37.1%	5.1%	2.5%	-	0.0%
8	4.29	47.6%	37.1%	11.6%	3.6%	0.0%	-	0.0%
9	3.66	21.5%	29.5%	26.9%	8.4%	2.5%	10.9%	0.4%
10	3.98	8.0%	6.9%	7.3%	0.0%	0.4%	76.4%	1.1%
11	3.60	13.1%	35.3%	49.8%	1.8%	0.0%	-	0.0%
12	3.99	28.4%	45.5%	23.3%	2.5%	0.4%	-	0.0%
13	4.55	66.5%	21.8%	8.4%	1.5%	0.4%	-	1.5%
14	3.92	31.6%	33.8%	27.6%	4.4%	1.1%	-	1.5%
15	4.03	32.0%	41.1%	22.2%	2.5%	0.7%	-	1.5%
16	3.97	28.4%	43.3%	23.3%	2.9%	0.7%	-	1.5%
17	2.77	8.0%	19.3%	32.4%	20.0%	18.9%	-	1.5%

「大薬祭」を楽しむ

学生部長 加藤 義 春

本年度の「第39回大薬祭」は、10月29日（金）から31日（日）までの3日間、順調かつ盛大に―台風の影響も予想され天候に気を揉むなか、2日目が終日雨で「フリーマーケット」の中止と屋外の催し物がピロティーへと変更になった以外は企画どおりに―執り行われ、トラブルや事故もなく無事終了した。

総合テーマ「百花繚乱」―本学百周年記念を念頭に置いてくたくさんの花が咲き乱れるように、大薬生一人ひとりが力を合わせて大薬祭を成功させよう、という意味を込めた」と聞く―に相応しく、恒例の各種イベント・催し物、各クラブの発表・展示会、模擬店の開催など、それぞれの企画が趣向を凝らしてグレードアップし、近隣の市民の参加も多く、大いに賑わった。

1日目のハイライトは「DAIYAKU Collection」―浴衣・着物や和洋折衷の衣裳、メイクアップの工夫など女子学生のいじらしいまでの装いに、私も思わず微笑した。

2日目、最大の呼び物「橋下徹のなるほど! 法律の法律」―TV『行列のできる法律相談所』で有名な若手弁護士・橋下徹を迎えての、トークのお笑いあり、素人には間違いやすい有益な法律問答ありのひと時、観客の喝采とため息の中で、私は本学学生の知的水準の高さ(?)を改めて認識した。

3日目、フィナーレの恒例の「薔薇祭」は噂にたがわず、出演グループのアイデアと猛練習(?)の成果が遺憾なく発揮されて、審査員に指名された私もそのエネルギーに圧倒され、観客・応援団ともども大いに楽しんだ。

3日間を通じての発表・展示会もそれぞれに日頃の成果が見られ、模擬店での各種販売・出し物も盛況で―2日目の雨で、売上はそれほどではなかったかもしれないが―、私も、何枚も買わされた(?)チケットでたらふく食べ、胃の具合を少々おかしくしてしまった。

そして、何よりも素晴らしかったのは、近隣住民の方々の参加が多く、保護者付き添いで「科学実験教室」、家族連れでの「薬用植物園見学会」や「フリーマーケット」での買い物等、大学の芝生広場を溢れるほどに賑わせていただき、私たち教職員や学生諸君と交流していただいたことであつた。

この「祭り」は、きっと素晴らしい「思い出」として、参加した学生諸君すべての胸に刻まれたことであろう。また、開催に向けて各種の企画・多方面の準備にと多大なエネルギーを注ぎ、開催期間中は裏方に徹して「祭り」を支えた執行部と実行委員会の諸君にとっては、必ずやそれぞれの将来に貴重な「糧」となるであろう。

さらに、執行部と実行委員会が共同で「大薬祭」期間中に、新潟県中越地震被災者のための「義援金」を募ったところ、計42,255円が集まり、これに「すすき」の売上の一割25,000円を合わせて、合計67,255円を「読売光と愛の事業団」と「日本赤十字社新潟県支部」に送付したことを付記して、その労をねぎらいたい。

最後に、今回の大薬祭に際しても、温かいご理解と多大なご支援・ご協力をいただいた育友会と同窓会を始め多くの方々に、厚く御礼申し上げます。



模擬店



フリーマーケット

学生相談室からのメッセージ

学生相談室相談員 児玉 陽子

—さまざまな感情—

今回は、感情・気持ちについて考えてみたいと思います。

さて、みなさんは、感情・気持ちを表す言葉をいくつ思い浮かべられますか？例えば、楽しい・悲しい・怒った・嬉しい、などはすぐ出てきますね。5個、10個まではすんなり出てきますが、20個、30個となると、つまづいてしまうのではないのでしょうか。

他にも、みじめ・おぞましい・情けない・恥ずかしい・興奮する・高揚する・安心する・ほっとする・悔しい・羨ましい、などなど。こうして挙げてみると、いくらでも出てきそうですね。ここには書ききれませんが、それは驚くほど、感情・気持ちを表す言葉はたくさんあります。そうして、どれもこれも、皆さん、少しは体験したことがあるのではないかと思います。考えてみると、われわれの心は、なんと豊かに「感じて」いることでしょうか。

しかし、感情・気持ちを表す言葉、とと言われて、それほどすらすら出てこないのは、私たちは、「感情・気持ち」を、いちいち意識せずに毎日過ごしているからだと思うのです。当たり前といえ当たり前でしょうか。毎日、毎時間、「私は怒っている」とか「わたしは恥ずかしくて穴があったら入りたい気持ちだ」とか「のんびりするなぁ」などと、心が感じてはいても、言葉に置き換えてはいることが多いからだと思います。それに、うれしいのだけれど悲しい、とか、腹立たしいけどほっとしている、など、言葉で表すのが大変難しい複雑な感情も、私たちは抱きます。それをすべて正確に言葉に置き換えようとすると、それだけで日が暮れてしまいそうです。

また、私たちには、自分で意識している心の動き、すなわち感情・気持ちと、自覚していない、あるいは無意識の感情・気持ちがあります。時には、気づきたくない感情というものもあるかもしれません。

心理相談、カウンセリングは、主として言葉を使って行われます。箱庭、描画、遊戯療法などの非言語的な手法もありますが、大人の相談では、まったく言葉を介さない面談というのはあまり考えられません。やはり、来談者が現在抱えている問題・悩み

を言葉を使って話すことから、相談が始められることが多いと思います。ですが、自分の本当の気持ちを言葉にして伝えていくことが、いかに困難か、もうお分かりいただけるのではないのでしょうか。

我々、相談を受ける側が、相談に来られる人を尊敬の念を持って接するのは、すでに相談に来ようと思われた時点で、この困難な作業に取り組もうと決心された人だからです。自分の気持ちを言葉にすることも、また、言葉にしたい気持ちにまで向き合おうとする姿勢は、生きることへの努力、すなわち、与えられた命を尊ぶことに他ならないと思っています。

ずいぶん、大きさに聞こえるかもしれませんが、でも、これでカウンセリングを受ける人が「弱い人」なんてイメージは吹っ飛ぶでしょう!!



岡 鈴佳相談員



児玉 陽子相談員

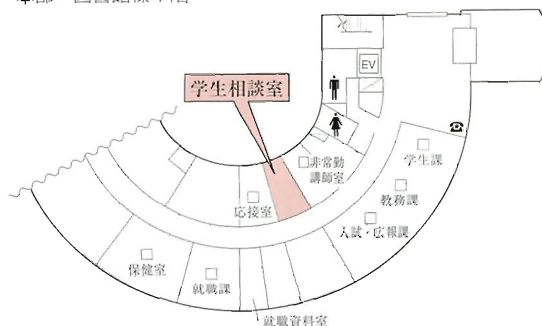
開室時間

毎週木曜日 12:00~16:00 岡 鈴佳

毎週金曜日 12:00~16:00 児玉 陽子

《場所》

本部・図書館棟1階



tel : (072) 690-1077(直通)

mail : counsel@gly.oups.ac.jp

平成16年度進路・就職状況（中間報告）

就 職 部

本年度の企業の採用活動は、早期化が若干緩和されましたが、主要企業の採用状況は依然、厳選採用中です。このような状況下にあっても、本学学生の進路・就職状況は昨年度同様堅調に推移しています。薬学生の就職状況も景気の動向、行政の影響を受けて、毎年激変しています。本学では、急変する就職動向に対応すべく、本年度4年次生には、既に3年次生の時に12回にわたり就職ガイダンスを開催し、個々の学生に応じた進路・就職選定に役立つ情報提供を行い、個別指導に力を入れてきました。

平成16年10月末現在の卒業予定者（52期生）の進路状況は別表1に示す通りです。全業種の内定率は、本年度73.1%（前年同期71.2%）となっています。現在、進路未定の多くの学生は病院薬剤師を第1希望にしている学生です。本年度の進路・就職状況の特徴として大きくは3点あります。1つめは、大学院進学者が増加傾向であることです。これは、薬学教育6年制（修業年限延長）の平成18年度よりの施行決定が大きく影響しているものと推察しています。本年度大学院進学者は、30.8%（前年同期25.1%）です。2つめは、公務員希望者が増加している点です。本年度の希望者は7.5%（昨年度4.2%）で、現在、公務員合格者は2.5%（前年同期0%）ですが、例年採用者の多い大阪府・大阪市の採用試験が12月～2月に実施されますので、昨年度より増加する見込みです。3つめは、薬業関連企業の内勤業務（生産技術・品質管理・学術・医薬開発等）の求人が増加傾向にあるという点です。これは、2005年度の薬事法改正を睨んで、受託製造を主体とする製薬メーカーからの求人が増えつつあるということと、CRO（医薬品開発業務受託機関）、SMO（臨床試験実施施設管理機関）の求人が増加してきたことです。なお、大学院博士前期課程修了予定者（29期生）の進路状況は別表2の通りです。

これら急激な状況変化に対して、本学就職部委員会・就職課は学生との一対一の個人面談を主軸とした指導を徹底しています。4年次生全員に対して、平成16年2月～3月に就職部委員による個人面談を実施し、かつ、就職課員による進路相談・個人面談を平成15年12月より開始しその相談件数は別表3に

示す如く、延べ300回以上となっています（データは平成15年12月～平成16年8月末日現在）。

また、就職ガイダンスも学生のニーズにあったガイダンスの実施を心掛け、実施回数・提供資料も工夫してきました。特に、ガイダンス実施後には毎回必ず学生の反応を確認し、次の就職ガイダンスに生かし、良質の情報を提供するようにしています。また、領域別就職ガイダンスでは、製薬企業・病院・保険調剤薬局の他に、公務員・CRO等も追加実施し、進路希望のニーズに応えています。

平成15年8月には、夏休みを利用して2回目のインターンシップを実施しました。このインターンシップは、大手製薬企業7社にお願いして、学内選考を経た17名で実施し、MR活動を中心とした就業体験をさせていただきました。学生には貴重な体験を得ることができたと好評で、平成16年度（53期生）も規模を拡大して、12社27名で8月に実施しました。

本年度の就職活動は、製薬企業（MR）を中心として3年次生の3月初旬より始まり、続いて保険調剤薬局・ドラッグストアなどでは昨年よりさらに早期化しています。本年度のMR職は5月頃までに、また、内勤職もおおよそ夏休みまでに終了しています。また、病院研修生の募集は大学院進学とほぼ同じく7月頃から始まり、試験が実施されています。病院薬剤師の募集も7月頃より始まり、その後、年末に向かって採用内定がでてくることとなります。保険調剤薬局・ドラッグストア薬剤師に対する需要は、急速な医薬分業の進展もあり、極めて大きくなっています。この職種では、本年度は全国展開している大規模店の関西進出が激しく、本学への求人・採用にもその兆しがでています。この職種については、需要供給の関係でしばらくは通年採用が続くと考えています。

近年は全ての職種でインターネットによる採用活動が取り入れられ、本学就職資料室にも学生専用パソコン2台・プリンター1台を設置して対応しています。このような変動に対して、学生は就職関連情報を的確につかみ、スピーディーに行動していくことが就職先決定には重要となっています。

就職部委員会・就職課では、従来通り一人ひとり

の適性や能力に応じてきめ細かな指導ができるように努力しております。

関係各位におかれましても、本学学生の就職につきまして、ご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

(別表1)

平成16年度 4年次生(52期生)進路・就職状況
(平成16年10月末日現在)

区 分	男子	%	女子	%	計	%	
薬 局	14(16)	14.9%	25(45)	13.5%	39(61)	14.0%(20.4%)	
病院・診療所	(1)		16(9)	8.6%	16(10)	5.7%(3.3%)	
病院研修生	2(0)	2.1%	15(14)	8.1%	17(14)	6.1%(4.7%)	
業 業 関 連 企 業	MR	9(16)	9.6%	18(25)	9.7%	27(41)	9.7%(13.7%)
	内勤	2(0)	2.1%	9(9)	4.9%	11(9)	3.9%(3.0%)
公務員・教職員	1(0)	1.1%	6(0)	3.2%	7(0)	2.5%(-)	
大学院進学	37(30)	39.4%	49(45)	26.5%	86(75)	30.8%(25.1%)	
そ の 他	(2)		1(1)	0.5%	1(3)	0.4%(1.0%)	
内 定	65(65)	69.1%	139(148)	75.1%	204(213)	73.1%(71.2%)	
未 定	29(24)	30.9%	46(50)	24.9%	75(86)	26.9%(28.8%)	
合 計	94(89)	100.0%	185(198)	100.0%	279(299)	100.0%(100.0%)	

※ () 内は、昨年10月末日現在を示す。

(別表2)

平成16年度 大学院博士前期課程(29期生)進路・就職状況
(平成16年10月末日現在)

区 分	男子	%	女子	%	計	%	
薬 局	(1)		1(0)	3.6%	1(1)	1.8%(2.9%)	
病院・診療所	1(0)	3.6%	(1)		1(1)	1.8%(2.9%)	
病院研修生	1(0)	3.6%			1(0)	1.8%(-)	
業 業 関 連 企 業	MR	1(2)	3.6%	1(0)	3.6%	2(2)	3.6%(5.9%)
	内勤	17(13)	60.7%	13(3)	46.4%	30(16)	53.6%(47.1%)
公務員	(1)		1(0)	3.6%	1(1)	1.8%(2.9%)	
大学院進学							
そ の 他	(1)				(1)	(2.9%)	
内 定	20(18)	71.4%	16(4)	57.1%	36(22)	64.3%(64.7%)	
未 定	8(8)	28.6%	12(4)	42.9%	20(12)	35.7%(35.3%)	
合 計	28(26)	100.0%	28(8)	100.0%	56(34)	100.0%(100.0%)	

※ () 内は、昨年10月末日現在を示す。

(別表3)

就職課員による進路相談・個人面談件数

(平成15年12月1日～平成16年8月31日現在)

【学部学生】

	男子	女子	計
延べ件数	65	211	276
実 数	35	105	140

【大学院学生】

	男子	女子	計
延べ件数	30	25	55
実 数	17	17	34

教務課だより

平成16年度後期行事予定

<学部> 平成16年

8.31 (火)	前期再試験受験者発表(1～3年次生)
9.3 (金)	前期再試験(4年次生・1～4年次全科目) 9月11日(土)を含む
9.15 (水)	
9.4 (土)	平成17年度編入学試験(H方式)
9.6 (月)	前期再試験(1～3年次生)9月11日(土)を含む
9.15 (水)	
9.8 (水)	平成17年度編入学試験(H方式)合格者発表
9.16 (木)	後期授業開始(1～3年次生)
9.17 (金)	月曜講義の振替開講日(1～3年次生)
9.21 (火)	第2回薬学総合演習総合試験(4年次生)
9.22 (水)	
9.24 (金)	特別再試験受験者発表(4年次生)
9.25 (土)	平成17年度AO入学試験(A方式)第1次選考 後期選択科目(1～3年次生)履修届提出締切 (教務課)午後3時 就職ガイダンス(3年次生)
9.27 (月)	平成17年度AO入学試験(A方式)第1次選考合格者発表
10.8 (金)	平成17年度(第2次)大学院修士課程一般入学試験
10.15 (金)	平成17年度AO入学試験(A方式)第2次選考
10.16 (土)	特別再試験(4年次生)この期間の月曜日
10.18 (月)	平成17年度(第2次)大学院修士課程一般入学試験合格者発表
12.13 (月)	
10.22 (金)	第3回薬学総合演習総合試験(4年次生)
10.23 (土)	第39回大薬祭準備(午後臨時休講)
10.25 (月)	
10.28 (木)	平成17年度AO入学試験(A方式)合格者発表
10.29 (金)	第39回大薬祭等(臨時休講)
11.1 (月)	
11.13 (土)	平成17年度推薦入学試験(S方式)・帰国生徒特別選抜入学試験(K方式)
11.26 (金)	平成17年度推薦入学試験(S方式)・帰国生徒特別選抜入学試験(K方式)合格者発表
11.27 (土)	第4回薬学総合演習総合試験(4年次生)
11.29 (月)	
12.8 (水)	実験動物慰霊祭
12.15 (水)	就職ガイダンス(3年次生)[学内企業セミナー(企業)]
12.中旬	就職個人面談(3年次生)
1.初旬	
12.18 (土)	平成16年度長期病院実務実習報告会(4年次生長期病院実務実習コース)
12.21 (火)	第5回薬学総合演習総合試験(4年次生)
12.22 (水)	
12.22 (水)	後期授業年内終了(1～3年次生)

平成17年

1.7 (金)	後期授業再開(1～3年次生)
1.11 (火)	月曜講義の振替開講日(1～3年次生) 後期授業終了(1～3年次生)
1.12 (水)	就職ガイダンス(3年次生)[学内企業セミナー(薬局)]
1.12 (水)	後期授業予備日(14日午後臨時休講)
1.14 (金)	
1.14 (金)	平成17年度大学入試センター試験実施準備(午後)
1.15 (土)	平成17年度大学入試センター試験[センター試験 利用入学試験(C方式)]
1.16 (日)	
1.17 (月)	後期定期試験(1～3年次生)
1.28 (金)	
1.31 (月)	後期定期試験(1～3年次生)欠席届提出締切 (教務課)午後1時
2.1 (火)	平成17年度一般入学試験Ⅰ(F方式)[本学・大阪 国際会議場・広島国際会議場(広島)・高松商工 会議所会館(香川)]
2.4 (金)	薬学総合演習正規試験1(4年次生)
2.5 (土)	
2.7 (月)	平成17年度センター試験利用入学試験(C方式)・ 一般入学試験Ⅰ(F方式)合格者発表
2.8 (火)	後期再試験受験者発表(1～3年次生)
2.9 (水)	平成17年度一般入学試験Ⅱ(G方式)(本学・大阪 予備校)
2.14 (月)	薬学総合演習正規試験2(4年次生)
2.15 (火)	
2.14 (月)	後期再試験(3年次生)2月19日(土)を含む (2月20日(日)試験予備日)
2.19 (土)	
2.14 (月)	後期再試験(1・2年次生)2月19日(土)を含む
2.24 (木)	
2.17 (木)	平成17年度一般入学試験Ⅱ(G方式)合格者発表
2.21 (月)	薬剤師国家試験全国統一模擬試験(4年次生)
2.22 (火)	
2.22 (火)	卒業生発表(教務課)
2.25 (金)	特別再試験受験者発表(3年次生)
3.7 (月)	特別再試験(3年次生)
3.10 (木)	
3.12 (土)	第90回薬剤師国家試験(厚生労働省)
3.13 (日)	
3.17 (木)	進級者発表・進級者未修得科目発表(教務課)
3.19 (土)	第52期学部学位記授与式

〈大学院〉
平成16年

9.27 (月)	後期待論開始
10.4 (月)	後期待論選択科目履修届提出締切(教務課)午後3時
10.4 (月) } 10.8 (金)	平成17年度(第2次)修士課程一般入学試験出願受付
10.15 (金)	平成17年度(第2次)修士課程一般入学試験
10.22 (金)	平成17年度(第2次)修士課程一般入学試験合格者発表
12.13 (月)	後期待論終了

平成17年

1.21 (金) } 1.28 (金)	平成17年度博士後期課程入学試験出願受付
2.8 (火)	平成17年度博士後期課程入学試験
2.16 (水)	修士学位論文提出期限(教務課)午後1時
2.18 (金)	平成17年度博士後期課程入学試験合格者発表
2.26 (土)	修士学位論文発表会
3.8 (火)	平成16年度修士課程修了者発表
3.19 (土)	第29期大学院学位記授与式

平成17年度大学院薬学研究科
博士前期課程(修士課程)入学試験結果

(推薦入試)

募集人員 8名(臨床薬学コースを含む)
 出願期間 平成16年6月21日(月)～6月25日(金)
 面接試験 7月5日(月)
 合格発表 7月13日(火)
 志願者 16名〔男子5名, 女子11名〕
 うち、臨床薬学コース 4名〔男子1名, 女子3名〕
 受験者 16名〔男子5名, 女子11名〕
 うち、臨床薬学コース 4名〔男子1名, 女子3名〕
 合格者 9名〔男子2名, 女子7名〕
 うち、臨床薬学コース 3名〔男子1名, 女子2名〕

(一般入試1次)

募集人員 32名(臨床薬学コースを含む)
 出願期間 平成16年7月20日(火)～7月30日(金)
 学力試験 8月20日(金)〔外国語科目(英語), 専門科目〕
 (臨床薬学コース希望者および他大学出身者のみ面接試験)
 合格発表 8月31日(火)
 志願者 71名〔男子35名, 女子36名〕
 うち、臨床薬学コース 7名〔男子2名, 女子5名〕
 受験者 67名〔男子34名, 女子33名〕
 うち、臨床薬学コース 7名〔男子2名, 女子5名〕
 合格者 61名〔男子30名, 女子31名〕
 うち、臨床薬学コース 7名〔男子2名, 女子5名〕

(一般入試2次)

募集人員 若干名(臨床薬学コースを含む)
 出願期間 平成16年10月4日(月)～10月8日(金)
 学力試験 10月15日(金)〔外国語科目(英語), 専門科目〕
 (臨床薬学コース希望者および他大学出身者のみ面接試験)
 合格発表 10月22日(金)
 志願者 7名〔男子1名, 女子6名〕
 うち、臨床薬学コース 2名〔男子0名, 女子2名〕
 受験者 7名〔男子1名, 女子6名〕
 うち、臨床薬学コース 2名〔男子0名, 女子2名〕
 合格者 7名〔男子1名, 女子6名〕
 うち、臨床薬学コース 2名〔男子0名, 女子2名〕

学位授与

[博士]

論博第39号 博士(薬学) 宮崎 誠

薬理効果を指標としたBioavailabilityの解析と妥当性の評価

(平成16年7月5日付)

論博第40号 博士(薬学) 井尻 好雄

Digitalis-like immunoreactive substances に関する研究

(平成16年7月5日付)

[学士]

学士(薬学) 薬学科 7名 製薬学科 20名

男子 15名 女子 12名 合計 27名

(平成16年9月30日付)

図書課だより

大阪医科大学との図書館相互利用が便利になりました

他大学の図書館を利用する場合、その多くは紹介状が必要です。大阪医科大学の図書館を利用する場合も同様で、これまでは紹介状が必要でした。この春、本学と大阪医科大学との間で学術交流協定が締結されたのを機に、利用方法を簡素化できないか両大学で検討してきました。その結果、相互に図書館カウンターで学生証や身分証明書を提示するだけで利用できるようになり、館内閲覧・文献複写などのサービスの提供も受けられるようになりました。

なお、本学図書館同様、大阪医科大学も日曜日は休館です。また、利用にあたっては大阪医科大学図書館が定める注意事項を厳守するよう留意してください。

経理課だより

◆ 平成17年度の入学金・学費について

平成17年度の入学金・学費が次のとおり決定しましたのでお知らせします(本年度と同額)。

<学部> (単位:円)

費目	金額	摘要
入学金	400,000	
授業料(年額)	1,200,000	
施設・設備費(年額)	600,000	

* 2年次以降、実習費を徴収することがあります。

<大学院> (単位:円)

費目	金額	摘要
入学金	300,000	
	150,000	本学卒業生
授業料(年額)	800,000	一般入学生
	600,000	推薦入学生

学生課だより

●学生証の更新について

黄色の学生証(平成15年入学者、平成13年以前の入学者対象)の有効期限は、平成17年3月31日までとなっています。このため、新年度に向けて学生証更新の手続きが必要になります。更新時期や手続き等については、学生部の掲示板で随時案内しますので、注意しておいてください。

●自動車・単車(原付を含む)通学の禁止について

本学では、通学途上の事故防止、騒音や路上駐車による近隣居住者への迷惑防止、構内での交通安全を確保し学園内環境を保全するため、自動車・単車(原付を含む)の入構については原則として禁止しています。

しかしながら、近隣路上に迷惑駐車をする学生が、後を絶ちません。利便性から「これぐらいはいいのでは」という安易な駐車が、大学周辺の居住者にとっては大きな迷惑となっています。学生自身の安全のためばかりではなく、居住者への迷惑防止のためにも、学内交通ルールを守り、バス等の公共交通機関を利用し通学するようにしてください。

奨学生状況

平成16年10月1日現在

1. 日本学生支援機構

区 分		1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	合 計
第 一 種		31	59	23	20	18	151
月 額	自 宅	53,000円	53,000円	51,000円	51,000円	87,000～	
	自宅外	63,000円	63,000円	61,000円	61,000円	121,000円	
第 二 種		72	55	68	47	11	253
月 額 (薬学課程増額月額)		3万・5万・8万・10万円から選択 (10万円を選択した場合は2万円の増額可)				5万・8万・ 10万・13万 円から選択	
合 計		103	114	91	67	29	404

2. その他の育英・奨学会

区 分	月額 (円)	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	合 計	給付・貸与
あしなが育英会	40,000	0	0	0	1	—	1	貸与
(財)伊予三島奨学会	25,000	0	0	0	1	—	1	貸与
(財)大阪府育英会	30,000	—	—	—	1	—	1	貸与
(財)岡山県育英会	50,000	0	1	0	1	—	2	貸与
(財)山口県奨学会	51,000	0	1	0	0	—	1	貸与
東大阪市教育委員会	17,000	0	0	0	1	—	1	貸与
(財)小野奨学会	学部 30,000 大学院 60,000	1	1	1	3	3	9	給付
(財)河内奨学財団	40,000	1	0	0	1	—	2	給付
(財)佐藤奨学会	19,500	0	1	0	1	—	2	給付
(財)森下仁丹奨学会	30,000	—	—	—	—	1	1	給付
公益信託鈴木万平記念薬学奨学基金	50,000	0	0	1	0	0	1	給付
大阪薬科大学一般奨学金	学部 50,000 大学院 60,000	2	0	1	1	1	5	貸与 (一部給付)
大阪薬科大学育友会奨学会	40,000	0	4	1	1	0	6	貸与
合 計		4	8	4	12	5	33	

「関西薬連大会・全国薬連大会」結果（平成16年度）

◆ 関西薬連大会

部 名	団 体	個 人
剣 道 部	男子 予選敗退	ベスト8：田端③・木挽①
	女子 4位 新人戦 予選敗退A・Bチーム	
硬 式 庭 球 部	男子 2位	シングルス／1位：渡辺①、入江②
	女子 1位	シングルス／4位：村田③
硬 式 野 球 部	3位	
サ ッ カ ー 部	4位	
柔 道 部	男子 1位	1位：宇野① 3位：木元①
	女子 ー	1位：時吉① 3位：藤田②
ソフトテニス部	男子 3位	
	女子 2位	
卓 球 部	男子 予選敗退	
	女子 ー	
バスケットボール部	男子 予選敗退	
	女子 予選敗退	
バドミントン部	男子 5位	ダブルス／3位：日下部③・田中②、武田④・清水④ ベスト8：岩崎①・河前① シングルス／ベスト8：河前①、田中②、日下部③
	女子 2位	
バレーボール部	男子 1位	
	女子 3位	
陸 上 競 技 部	(総合) 男子4位、女子3位	
	(男子)トラック	110mハードル／4位：片桐① 100m×4リレー／3位：田中③・内田③・中村③・倉田② 400m×4リレー／4位：田中③・内田③・中村③・倉田②
	フィールド	走高跳び／2位：片桐① 3位：中村③
	(女子)トラック	100mハードル／4位：都築③ 200m／4位：井上① 400m／2位：初瀬① 100m×4リレー／3位：都築③・奥村②・楠本②・宇埜①
	フィールド	やり投げ／1位：滝井② 走高跳び／1位：初瀬① 走幅跳び／4位：大橋③

◆ 全国薬連大会

部 名	団 体	個 人
剣 道 部	男子 予選敗退	
	女子 予選敗退	
ソフトテニス部	男子 3位	
	女子 3位	
卓 球 部	男子 予選敗退	
	女子 ー	
バスケットボール部	男子 8位	
	女子 予選敗退	

(注) ○内は学年

就職課だより

卒業後3年の就職動向アンケート調査報告 —平成12年度卒業生(48期生)—

平成16年度4年次生(52期生)の就職内定状況も、昨年度同様順調に推移しています。本学就職部委員・就職課では就職後のミスマッチを防ぐために3年次生全員に対する個人面接および個人面談の強化、ならびにMRインターンシップの拡大(12社、27名)など、種々取り組んでいます。

近年、大学新卒者の早期退職、転職が3年以内で30%以上とも言われています。そこで本学ではますます多様化・高度化する薬業界の動向やニーズを的確に知り、学生の就職指導に反映させるため、本年度より卒業後3年を経過した本学OB・OGの方々に3年間の就職状況に関するアンケート調査を平成12年度卒業生(48期生)にお願いして実施しました。その結果、次のような調査結果を得ることができましたのでご報告いたします。

【調査結果】

- アンケート対象：平成12年度卒業生
- アンケート送付数：332名
- アンケート回答者数：95名(28.6%)

〔回答者95名の分布〕

1. 卒業後3年以内に転職した人 26名(27.4%)
 転職していない人 69名(72.6%)
2. 卒業後から現在までの就職状況の変遷について(転職者26名の内訳)
 - (1) - 1) 調剤薬局→調剤薬局 5名(19.2%)
 - 2) 調剤薬局→公務員 2名(7.7%)
 - 3) 調剤薬局→病院 1名(3.8%)
 - 4) 調剤薬局→企業 1名(3.8%)
 - 5) 調剤薬局→休職中 1名(3.8%)
 - (2) ドラッグストア→調剤薬局 2名(7.7%)
 - (3) - 1) 病院→調剤薬局 7名(26.9%)
 - 2) 病院→病院 4名(15.4%)
 - (4) - 1) 企業→企業 1名(3.8%)
 - 2) 企業→調剤薬局 2名(7.7%)

3. 転職した理由について(複数回答)

理由	件数	理由	件数	理由	件数
勤務地	3	人事制度	3	リストラ	—
人間関係	7	評価制度	13	家庭の事情	6
待遇	13	倒産	—	その他	5

※その他

- ・国試の受験勉強
- ・仕事内容
- ・再出発したい

4. 今後、転職を考えているかとその理由について(複数回答)

〔転職をした26名〕

1. 考えている 12名(46.2%)
2. 考えていない 14名(53.8%)

理由	件数	理由	件数	理由	件数
勤務地	2	人事制度	—	リストラ	—
人間関係	4	評価制度	1	家庭の事情	1
待遇	2	倒産	—	その他	6

※その他

- ・勤務時間
- ・スキルアップ
- ・やりがい
- ・病院への就職を希望
- ・正社員として就職したい
- ・ドラッグストアで働いてみたい

〔転職をしていない69名〕

1. 考えている 28名(40.6%)
2. 考えていない 41名(59.4%)

理由	件数	理由	件数	理由	件数
勤務地	7	人事制度	7	リストラ	—
人間関係	2	評価制度	4	家庭の事情	1
待遇	14	倒産	1	その他	14

※その他

- ・結婚
- ・適性
- ・給料
- ・スキルアップ
- ・仕事内容
- ・他職種に興味がある
- ・現在、非常勤のため
- ・MRは3年と決めて就職した。資格をいかした職に就きたい

本調査によって、本学卒業生も卒業後3年間で30%近く転職・退職していることが判明しました。これは全国大学新卒者の3年後の動向に類似しています。アンケート回答者95名(28.6%：95/332)中、転職した26名(27.4%)を分析してみると、卒業後、調剤薬局・ドラッグストアでスタートして転職したものが12名(46.2%)と最も多く、以下、病院11名(42.3%)、製薬企業3名(11.5%)の順でした。卒業後から最初の転職までの期間は平均16.8ヶ月でしたが、38.5%(10/26)の人が1年以内に転職しています。最初の転職までの期間を職種別にみると、調剤薬局・ドラッグストアが18.1ヶ月、病院13.7ヶ月、製薬企業20.7ヶ月でした。3年以内で2回以上転職したものは11.5%(3/26)でしたが、1回転職経験のある26名中、12名(46.2%：12/26)がさらに転職を考えていると回答しています。また、3年間転職をしていない69名の中でも28名(40.6%)が今後、転職を考えていることも分かりました。転職理由としては、待遇、評価制度、人間関係が最も多くなっています。

今回の調査結果から、就職ガイダンス、セミナーの内容の充実、きめ細かな職種別情報提供の必要性が示唆され、今後、個人面接・個人面談を充実させて学生一人ひとりに合った就職・進路支援を強化していきたいと考えています。

最後になりましたが、本調査にご協力いただきました平成12年度卒業生(48期生)の皆さま、および本学同窓会事務局の方々に心から御礼申し上げます。

<参考資料>

平成12年度 卒業生(48期生)進路状況

(平成13年3月31日現在)

区 分	男子	%	女子	%	計	%	
薬 局	13	14.3%	75	31.0%	88	26.5%	
病 院・診 療 所	4	4.4%	32	13.3%	36	10.8%	
病 院 研 修 生	1	1.1%	20	8.3%	21	6.3%	
薬 業 関 連 企 業	MR	21	23.1%	31	12.9%	52	15.7%
	内勤	1	1.1%	19	7.9%	20	6.0%
公 務 員・教 職 員			6	2.5%	6	1.8%	
大 学 院・研 究 生	38	41.7%	27	11.2%	65	19.6%	
そ の 他	13	14.3%	31	12.9%	44	13.3%	
合 計	91	100.0%	241	100.0%	332	100.0%	

入試・広報課だより

「進学説明会」を開催しました

6月4日(金)ホテルグランヴィア大阪において、高等学校ならびに予備校の先生方を対象とする進学説明会を、また6月12日(土)には高松商工会議所会館、6月19日(土)には広島国際会議場において、同様の進学説明会を開催した後、受験生(高校1・2年生を含む)や保護者を対象とした説明会を行いました。

本年度は、高松・広島両会場の受験生を対象とした説明会は、昨年度とは異なり、会場が半分程度しか埋まらず、少し残念な気がしました。

3会場ともまず大学紹介ビデオを上映し、「オープンキャンパスには行きたいけれども、ちょっと遠い」という方のために「バーチャル学内見学」を楽しんでいただいた後、薬学や入試、カリキュラム、学生生活、就職に関する説明ならびに活発な質疑応答を行い、改めて本学や薬学への関心の深さを実感することができました。

「オープンキャンパス」を終えて

8月6日（金）および8月27日（金）の両日にわたりオープンキャンパスを開催しました。当日は入試内容の説明だけにとどまらず、薬学とはどのような学問なのか、また4年間の薬学教育を終えた後の進路などについて説明の後、情報科学演習室を開放しCG（コンピューターグラフィックス）の体験を兼ね化学構造式について学んだり、模擬実験（「薬剤師の仕事体験してみよう～散剤（粉薬）の模擬調剤と軟膏剤の調製～」）を体験したり、また電子顕微鏡室を利用しミクロの世界を堪能したりの学内見学を行いました。さらに研究棟を全面開放して研究室（2～6階）の見学を実施しました。この研究室見学は、在学生の案内によるグループ見学ですが、実施後のアンケートによると、年齢が比較的近くて親しみやすく、また学生の生の声が聞けて良かったと好評でした。

なお、個別相談コーナーでは、編入試（H方式）、AO入試（A方式）、推薦入試（S方式）に加えて、平成18年度からの薬学教育6年制に関する質問が大半を占めました。本年度オープンキャンパスへの参加者は、延べ約760名と、本学夏恒例のビッグイベントとして定着しました。



模擬実験



学内見学



個別相談

「全国医科歯科薬科大学進学相談会（大阪会場）」に参加して

9月26日（日）阪急グランドビルにおいて行われた「全国医科歯科薬科大学進学相談会（大阪会場）」に参加しました。大学卒業者の就職状況が厳しい昨今においても、医療・薬学系の大学は「資格取得」という大きな魅力があり、会場は熱心な受験生や保護者で大盛況でした。とりわけ、薬学系大学においては、平成18年度からの薬学教育6年制の実施を控え、平成17年度が4年制における最後の受験機会となることもあり、本学の相談ブースには平成17年度入試について活発に質問される受験生や保護者の方で順番待ちの行列ができるほどでした。

今年度は、この他にも天王寺MiO（6月）、福岡（7月）、ゆめニティ松原（7月）、東京（10月）等において開催された受験生（高校1・2年生を含む）や保護者を対象とした進学相談会に参加し、平成17年度入試概要を中心に説明を行いました。

大学入試センター試験

「英語リスニング試行テスト」が実施される

平成18年度の大学入試センター試験から、英語にリスニングテストが導入されますが、その試行テストが9月26日（日）、大学入試センターが全国から公募した高校2年生を対象に全国で実施され、本学では41名（志願者48名）が受験しました。

このテストは、試験時間は30分で、受験者が小型の再生機（ICプレーヤー）から流れる音声問題をヘッドホンなどで聞いて解答するものです。

総務課だより

◆ 人 事

<大学関係>

採用 (平成16年6月22日付)

就職課長 渡辺 威郎 (嘱託職員) 任期5年
(平成16年11月1日付)

附属薬局薬剤師 鈴木 靖規 (嘱託職員) 任期5年

再任 (平成16年10月1日付)

附属薬局薬剤師 角井 義昌 (嘱託職員) 任期5年
(平成16年10月18日付)

附属薬局薬剤師 片岡絵里子 (嘱託職員) 任期5年

退職 (平成16年7月11日付)

河原林進一郎 (附属薬局薬局長) 任期満了
(平成16年8月31日付)

高橋 宏幸 (附属薬局薬剤師) 任期満了
(平成16年9月30日付)

田口 真里 (附属薬局薬剤師) 任期満了

併任 (平成16年6月1日付)

附属薬局薬剤師

中元 安雄 (助教授)

西野 隆雄 (講師)

羽田 理恵 (助手)

(平成16年7月15日付)

大学院博士前期課程指導教員

宮崎 誠 (助手)

(平成16年10月1日付)

附属薬局管理薬剤師

中元 安雄 (助教授)

退任 (平成16年6月30日付)

齋藤 貴博・事務局情報化アドバイザー

配置換え (平成16年9月16日付)

天野富美夫 教授 (総合薬学系生命薬科学部門
(生理機能化学研究室))

藤本 陽子 助教授 (総合薬学系生命薬科学部門
(生理機能化学研究室))

佐久間 覚 助手 (総合薬学系生命薬科学部門
(生理機能化学研究室))

非常勤講師 (平成16年9月16日付)

久保 道徳 (東洋医学概論)

斎藤 武 (数学2)

田口 侑男 (数学2)

中塚 宗次 (薬事関連法・制度)

中村 益久 (臨床薬理学1)

中村 恵 (ドイツ語3、ドイツ語4、洋書講読
ゼミ2)

樋口 久 (英語2)

藤田 義孝 (フランス語4、洋書講読ゼミ2)

榊矢 桂一 (人間と文化2、ドイツ語3、ドイツ
語4、洋書講読ゼミ2、)

Joseph Michael Jacobs (英語4)

Julianne Gay Whitlam (英語4)

Anthony FW Foong (洋書講読ゼミ2)

客員研究員 (平成16年7月1日付 期間1年)

田川 素子

林 哲也

森 龍彦

(平成16年10月1日付 期間1年)

内田 武

<法人関係>

評議員就任 (平成16年9月1日付)

左右田 隆

評議員退任 (平成16年8月31日付)

隅野 靖弘

◆ 慶 弔

<訃報>

久保田晴寿 元学長 平成16年8月31日逝去

石黒 武雄 功労者 平成16年10月9日逝去

田中 千秋 名誉教授 平成16年10月13日逝去

◆ 9月学位記授与式

平成16年9月24日(金)午前10時より大会議室において、平成16年9月学位記授与式(薬学科7名、製薬学科20名)が関係者参列のもとに挙行されました。



◆ 寄 贈

平成16年7月に本学名誉博士の林明美氏（中国在住）より、本学創立百周年を祝して書画3点を寄贈いただきました。



◆ 大阪薬科大学同窓会よりの寄付

平成16年10月15日付で大阪薬科大学同窓会より、本学創立100周年記念事業への助成として、2,000万円のご寄付を頂戴いたしました。

◆ 海外出張

千熊 正彦 教授（生体分析化学教室）
＜出張期間：平成16年8月28日～9月3日＞
第7回欧州生物無機化学会議（ガルミッシュパーテンキルヘン、ドイツ）

田中 一彦 教授（臨床薬剤学教室）
廣谷 芳彦 講師（臨床薬剤学教室）
＜出張期間：平成16年9月3日～9月11日＞
第64回国際薬剤師連合（FIP）（ミズリー・ニューオーリンズ、アメリカ）

矢内原千鶴子 学長
田中 一彦 教授（臨床薬剤学教室）
秋月 延夫 総務課長
＜出張期間：平成16年11月4日～11月9日＞
クイーンズランド大学との学術交流協定調印式出席（ブリスベン、オーストラリア）

馬場きみ江 教授（生薬科学教室）
芝野真喜雄 助手（生薬科学教室）
＜出張期間：平成16年12月11日～12月15日＞
アシタバの栽培視察と現地生薬の調査（スラバヤ、インドネシア）

◆ 海外留学

谷口 雅彦 講師（生薬科学教室）
＜留学期間：平成16年10月1日～平成17年9月30日＞
ノースカロライナ大学（アメリカ）

◆ 大阪薬科大学

ハイテク・リサーチ・センター
平成16年度公開シンポジウム

「DNA・RNA結合分子を標的とした疾病の発症機構の解明とその診断・予防および治療薬の開発への応用」

日 時：平成16年12月4日（土）13：00
場 所：大阪薬科大学・講義室2A

＜プログラム＞

13：00～13：45
三元錯体生成反応系を利用するDNA関連化合物の新規分析法の開発
藤田 芳一（大阪薬科大学・助教授）

13：45～14：30
分子インプリントポリマーを用いた活性医薬品のスクリーニング
萩中 淳（武庫川女子大学薬学部・教授）

14：30～15：30 ポスターセッション
15：30～16：15
シスプラチン耐性を克服する白金制癌剤の開発：新規白金（II）複核錯体と核酸との相互作用
千熊 正彦（大阪薬科大学・教授）

16：15～17：00
DNA・RNAの特性を活かしたテラーメイド・バイオセンシングシステムの創製
杉本 直己（甲南大学理工学部・教授、甲南大学先端生命工学研究所（FIBER）・所長）

主 催 大阪薬科大学
協 賛 （社）日本薬学会
（社）日本化学会
（社）日本生化学会

キキョウ *Platycodon grandiflorum* A.DC.

キキョウ（キキョウ科）は北海道西南部から沖縄までの日本全土、中国、朝鮮半島のほぼ全土で、日当たりの良い、やや乾燥した草地に見られる多年生草本である。背丈は40～100cmで直立し、根は太く、8月～9月に茎の頂に青紫色の鐘形の大きな花を付ける。科名のCampanulaceaeは花の形に由来しており、リストの名曲、「鐘」(La Campanella)と同じ由来である。花がきれいで目立つため、心ない人により折り取られてしまうことも多く、最近では野生種を見かけることはほとんど無い。日本では主として、切り花として出荷されるため、各地で栽培されている。栽培には水はけ、日当たり、肥沃な土壌を好む。花の雰囲気が日本人の性格とよくマッチしているのか、古くは平安時代より、愛され和歌に詠まれたり、家紋に用いられたりしてきた。平安時代のキキョウの古名の1つに阿利乃比布岐というのがあるが、これは花の中心にある花柱を「火吹竹」に見立て、それが小さいので蟻を付けたのではないかという説がある。キキョウの花は開花したときには、雄しべが雌しべの周りにくっ付いた状態になっている。(写真1)花柱に付いた花粉を虫に提供して、雄しべが先に成熟する。(写真2)花柱の花粉が虫によって少なくなると、花柱の先が5つに開き、柱頭が現れる。(写真3)このように雄しべが先に成熟し、時間をあけて雌しべが出るので、自家受粉はできない仕掛けになっている。開花の時期により花の形が違って見えるのはそのためである。朝鮮半島では、主に根を細く裂いて軽くゆで、水でさらした後、食料品として大量に消費されている。トラジまたはトラと呼ばれ、これにちなんだ歌は有名である。一方、中国ではもっぱら根を薬用とし、神農本草経の中品にも「桔梗」の名で収載されている。この名前は桔も梗も直立する形状を意味するという。薬用植物としての栽培も盛んで、安徽省、浙江省、江蘇省、湖北省、東北諸省などでの栽培が多い。主として、消炎排膿、鎮咳去痰を目的とした漢方処方に配合されている。代表的な処方に排膿湯、十味排毒湯、清肺湯などがある。和名のキキョウはこの桔梗を音読みし、「きちこう」から「きっきょう」、さらに「ききょう」になったという。日本でも根を薬用（生薬名：桔梗根）とするが、中国、韓国、北朝鮮からの輸入した

ものが大部分である。生薬の「桔梗根」は太くて灰白色で質はやや軽く、堅いが折れやすく、縦に大きなしわがあることが多い。わずかににおいがあり、口にすると後にえぐみと苦みを感じる。この形状は人参や芍薬とよく似ているが、デンプンや蔗糖を含まないで、イヌリンを含んでいるので、検鏡またはヨウ素反応（陰性）で、他の生薬と容易に区別できる。主成分として、サポニンのプラチコディンA、C、D、D₂やポリガラシンD、D₂などが含まれている。これらのサポニン類には、咽頭粘膜、上部消化管粘膜を刺激して、反射的に分泌を増加させることによる、鎮咳去痰作用が知られている。この他にも、サポニン類には溶血、鎮静、鎮痛、解熱などの中枢抑制作用、抗炎症作用、抗アレルギー作用、胃液分泌抑制作用、抗潰瘍作用、末梢血管拡張作用などが知られている。イヌリンには抗腫瘍活性があるという。その他の作用として、血糖降下作用、マクロファージ食能亢進作用、利尿作用、抗菌作用なども報告されている。（薬用植物園長 馬場きみ江）

写真1



写真2



写真3





発 行

大阪薬科大学広報委員会

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4-20-1

TEL (072) 690-1019(入試・広報課)

FAX (072) 690-1018(”)

URL <http://www.oups.ac.jp/>